

平成30年度岩倉市市民意向調査

調査結果概要報告

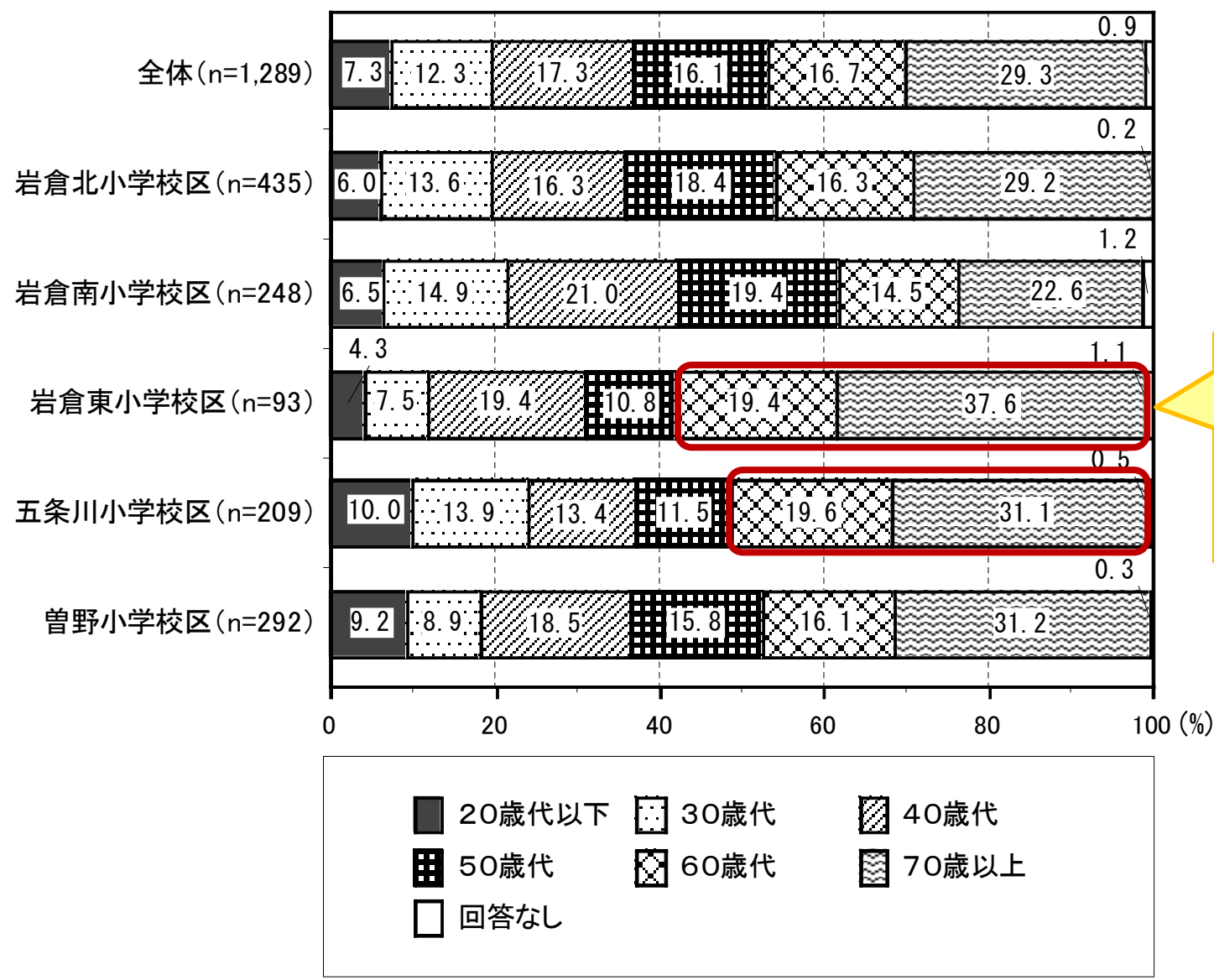
◆令和元年8月8日 第1回岩倉市総合計画審議会◆

0-1. 調査の概要

目的	「第5次岩倉市総合計画」策定のために必要な資料を得るため
調査対象	岩倉市内の18歳以上の市民4,000人（定住外国人203人を含む）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成30年8月24日から平成30年9月10日まで
回収状況	回収数：1,292票、有効回収数：1,289票（外国人11票）有効回収率：32.2%

	配布数 (票)	回収数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
全体	4,000	1,292	1,289	32.2%
岩倉北小学校区	1,188	435	435	36.6%
岩倉南小学校区	784	248	248	31.6%
岩倉東小学校区	392	93	93	23.7%
五条川小学校区	608	209	209	34.4%
曽野小学校区	1,028	292	292	28.4%
不明	-	12	9	-

0-2. 調査の概要



岩倉東小学校区と
五条川小学校区では、
回答者の半数超が
高齢者（60歳以上）

0-3. 評点の算出

【生活の場としての評価及び住まいの周辺の生活環境評価の評点の算出方法】

生活の場としての評価	住まいの周辺の生活環境評価	得点（評点）
良い	満足	+ 1 点
普通	どちらともいえない	± 0 点
悪い	不満	- 1 点

評価（満足度）の平均得点
= {「良い（満足）」の回答者数 × (+ 1 点) + 「普通（どちらともいえない）」の回答者数 × (0 点) + 「悪い（不満）」の回答者数 × (- 1 点)} ÷ 総回答者数

【満足度・重要度の評点（平均得点）の算出方法】

満足度	重要度	得点（評点）
満足	非常に重要	+ 2 点
まあ満足	重要	+ 1 点
普通	普通	± 0 点
やや不満	あまり重要でない	- 1 点
不満	重要でない	- 2 点

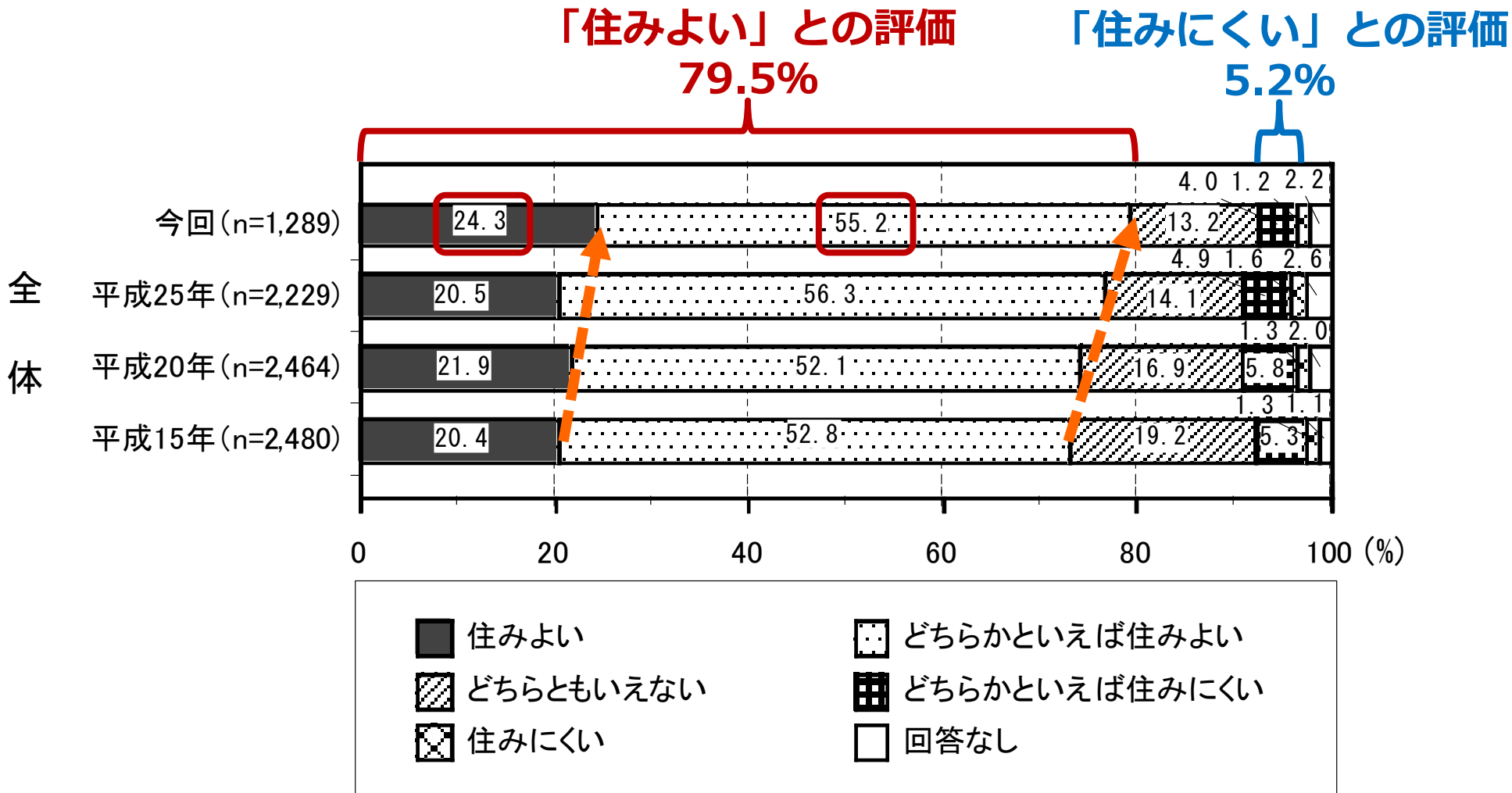
満足度の平均得点
= {「満足」の回答者数 × (+ 2 点) + 「まあ満足」の回答者数 × (+ 1 点) + 「普通」の回答者数 × (0 点) + 「やや不満」の回答者数 × (- 1 点) + 「不満」の回答者数 × (- 2 点)} ÷ 総回答者数

重要度の平均得点
= {「非常に重要」の回答者数 × (+ 2 点) + 「重要」の回答者数 × (+ 1 点) + 「普通」の回答者数 × (0 点) + 「あまり重要でない」の回答者数 × (- 1 点) + 「重要でない」の回答者数 × (- 2 点)} ÷ 総回答者数

1 岩倉市の住みやすさ

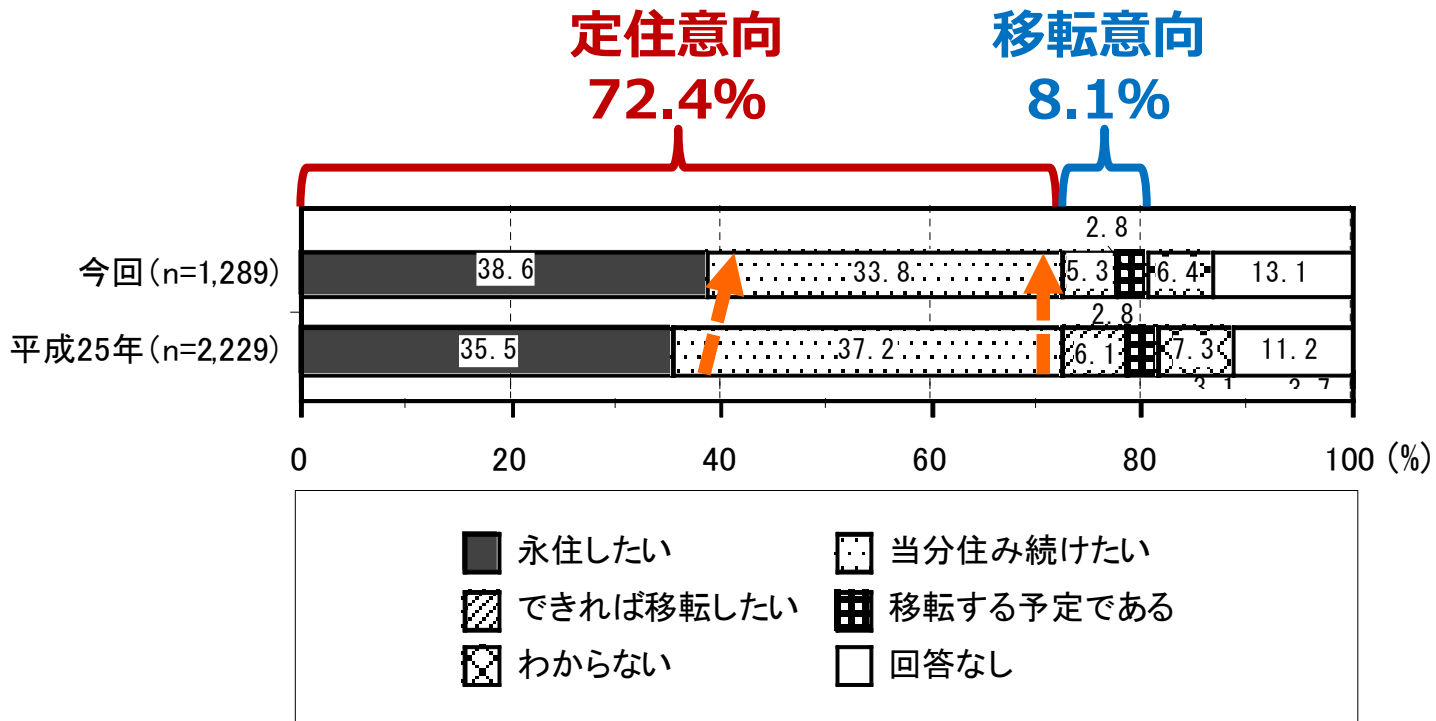
1-1. 総合的な住みやすさ（問12、経年比較）

- ◆ 「住みよいとの評価」は79.5%で「住みにくいとの評価」の5.2%より74.3ポイント高い。
- ◆ 「住みよいとの評価」は増加傾向。H15調査の73.2%から79.5%に6.3ポイント増加、H25調査からは2.7ポイント増加。



1-2. 定住意向（問13、小学校区別）

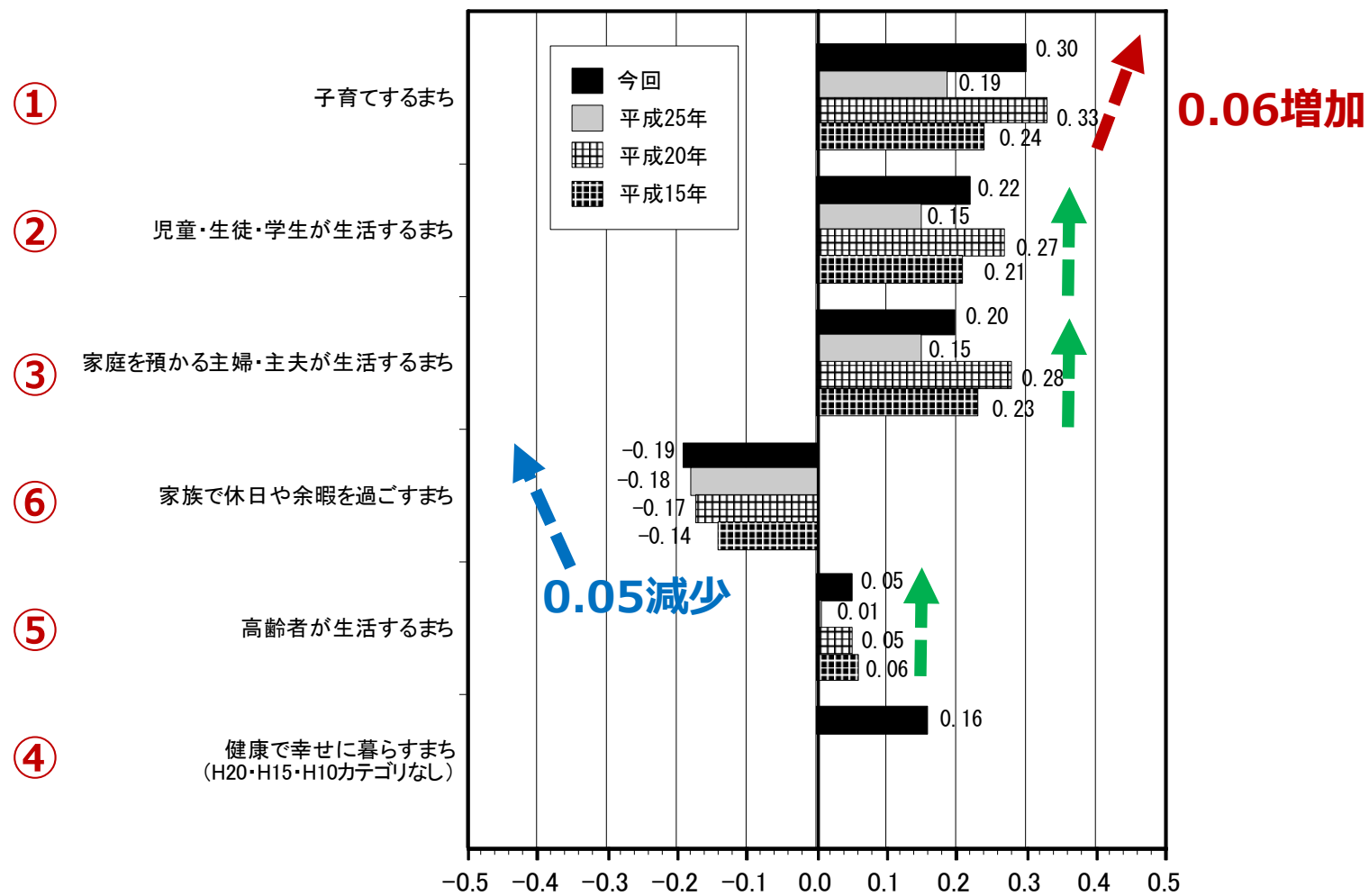
- ◆ H25調査と比較し全体的に大きな変動はみられないが「永住したい」は3.1ポイント増加。
- ◆ H25調査から「永住したい」が上昇：岩倉北、五条川、曽野 ⇔ 低下：岩倉南、岩倉東



永住したい(%)	岩倉北	岩倉南	岩倉東	五条川	曽野
H30	↑ 41.4	↓ 31.9	↓ 26.9	↑ 45.5	↑ 39.0
H25	34.5	36.8	32.0	39.4	36.2
H20	40.8	39.1	27.8	47.9	40.4
H15	38.5	43.1	33.1	45.2	39.8

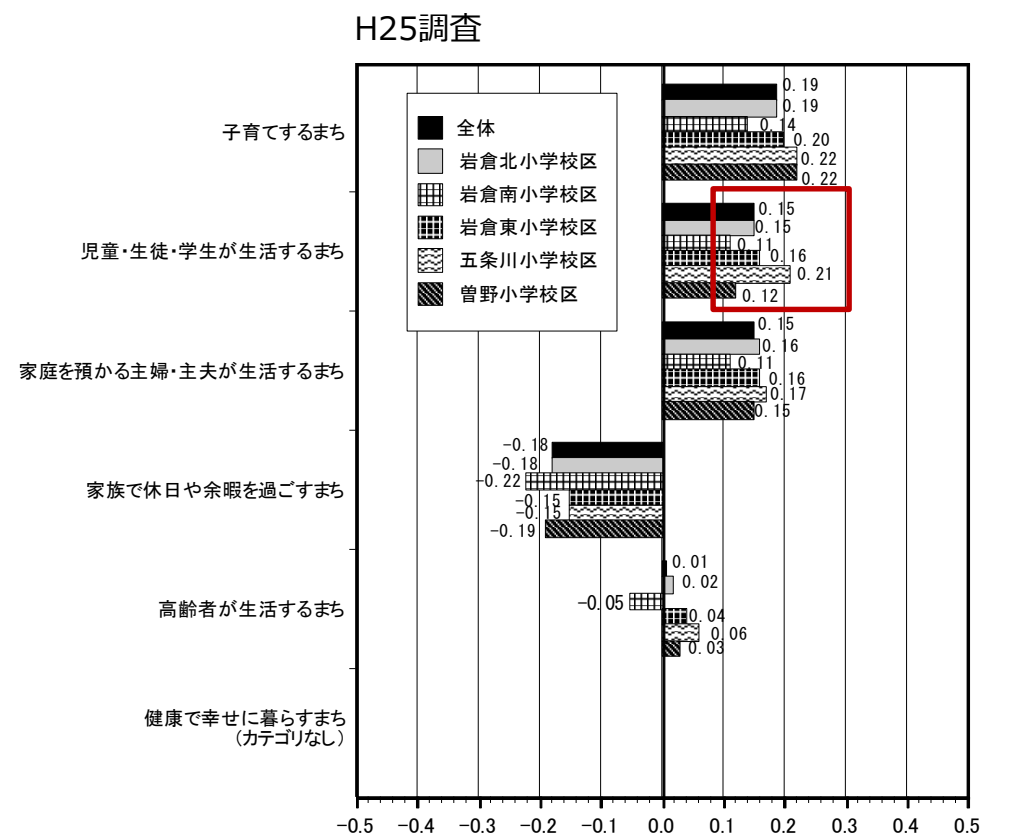
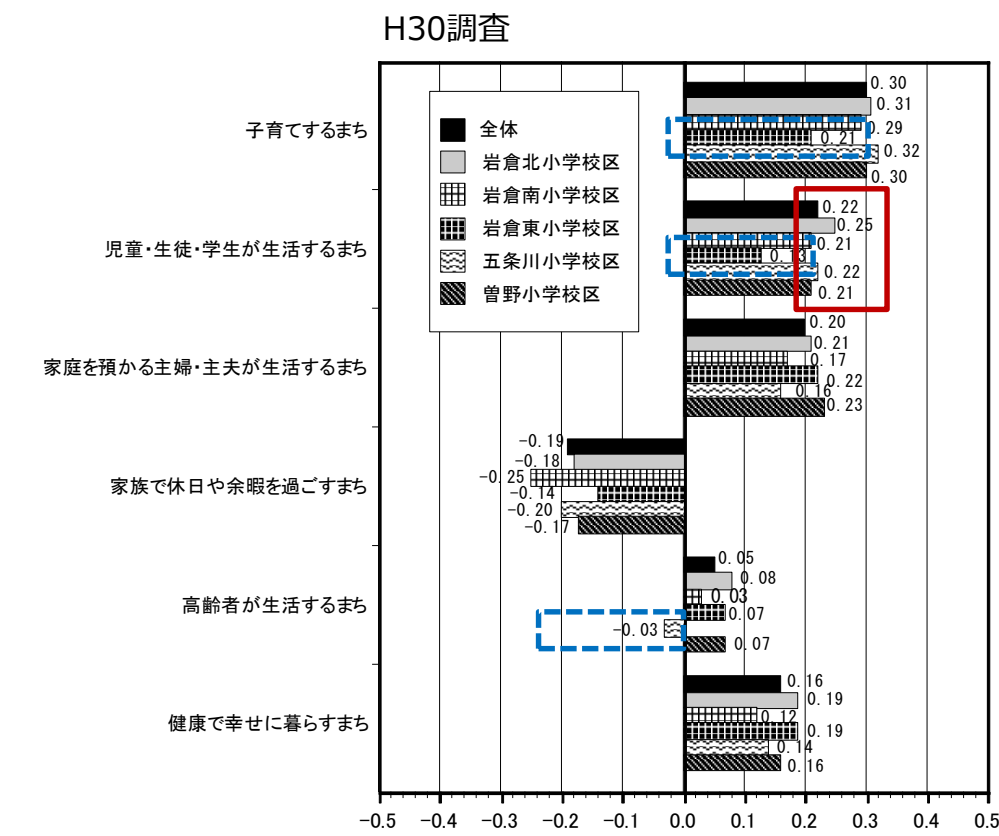
1-3.生活の場としての評価（問11、経年比較）

- ◆ 「子育てするまち」としての評価は上昇傾向だが、その他の項目の評価は横ばいの傾向。
- ◆ 「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価はマイナスが続く。
- ◆ 「健康で幸せに暮らすまち」との評価は、全体でみると中位。



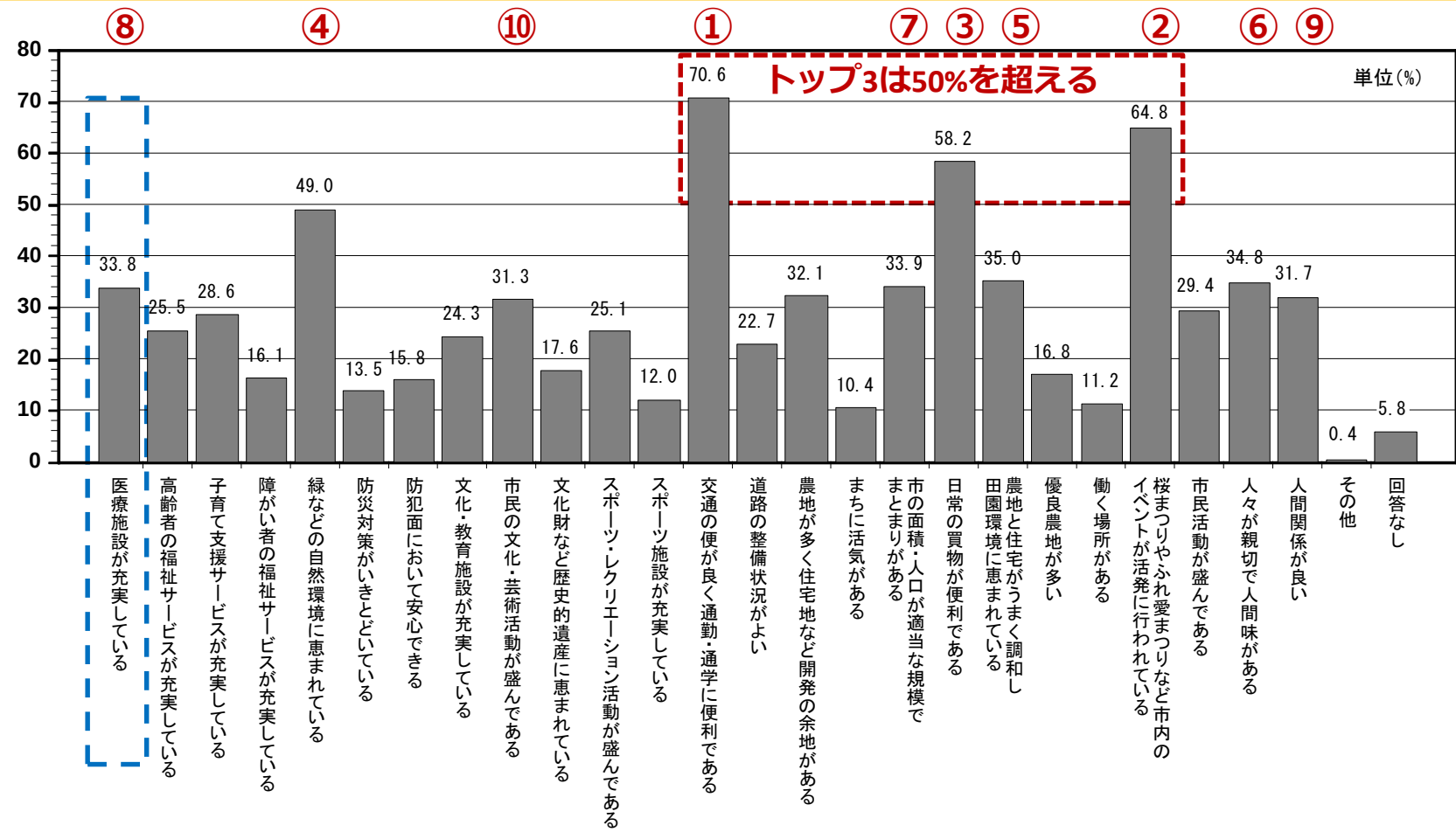
1-4.生活の場としての評価（問11、小学校区別）

- ◆H25調査から、小学校区ごとの順位傾向に大きな変化はないが、**岩倉南、曽野小学校区は「児童・生徒・学生が生活するまち」のポイントが上昇し、岩倉東小学校区と逆転。**
- ◆**岩倉東小学校区では、「子育てするまち」、「児童・生徒・学生が生活するまち」が低く、五条川小学校区は、「高齢者が生活するまち」が唯一マイナス評価。**



1-5.岩倉市の魅力がある点（問9）【あてはまるものをすべて選択】

- ◆ 1人あたりの**選択項目数は7.4個**で、「魅力がない点」の5.1個より選択項目数が多い。
- ◆ **上位3項目は回答の割合が50%を超えており、半数以上の市民が評価している。**
- ◆ 「**医療施設が充実している**」は魅力がある点で上位。一方で、**魅力がない点でも上位に「医療施設が充実していない」**があり、**評価が分かれている。**



1人あたり 選択項目数 (H20基準)	
H30	7.4
H25	8.1
H20	5.8

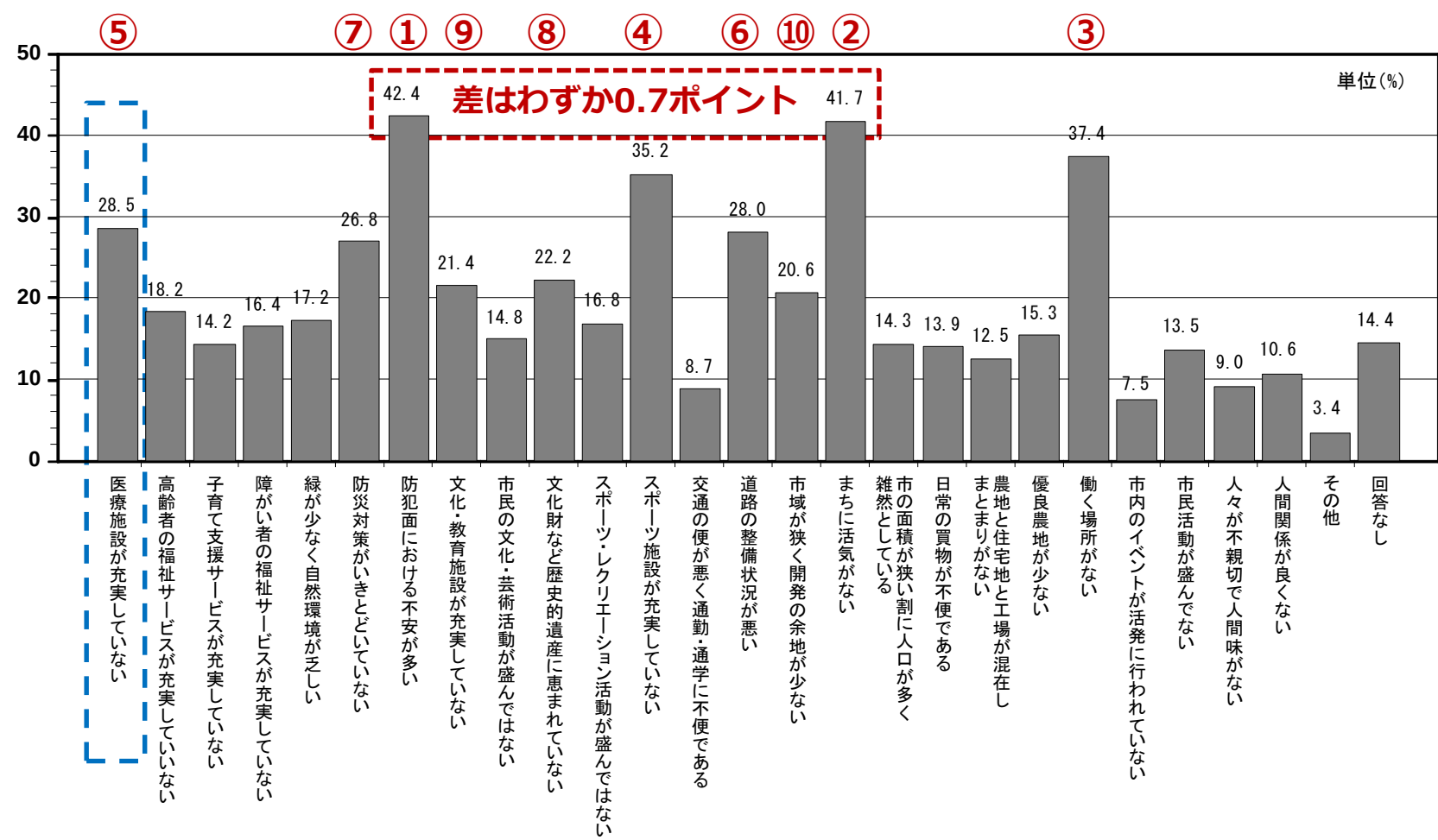
1-6.岩倉市の魅力がある点（問9、上位10項目の推移）

- ◆評価が上昇傾向の項目と、下降傾向の項目がはっきりと分かれている。
- ◆交通、イベント、自然環境に対する評価は、H20調査から一貫して増加している。
- ◆H20調査と比べて、買い物の利便性や医療施設に関する項目の評価は上昇傾向。

順位	平成20年	割合	順位	平成25年	割合	順位	平成30年	割合	前回比較
1	交通の便が良い	68.3	1	交通の便が良い	72.6	1	交通の便が良い	70.6	↓
2	市内のイベントが活発	58.8	2	市内のイベントが活発	65.8	2	市内のイベントが活発	64.8	↓
3	福祉施設が整っている	44.6	3	日常の買物が便利	64.6	3	日常の買物が便利	58.2	↓
4	自然環境に恵まれている	34.7	4	自然環境に恵まれている	47.4	4	自然環境に恵まれている	49.0	↑
5	田園環境に恵まれている	30.3	5	人々が親切で人間味がある	40.4	5	田園環境に恵まれている	35.0	↓
6	人々が親切で人情味がある	25.4	6	田園環境に恵まれている	38.9	6	人々が親切で人間味がある	34.8	↓
7	日常の買い物に便利	24.1	7	人間関係が良い	36.3	7	市が適当な規模でまとまりがある	33.9	↑
8	市が適当な規模でまとまりがある	22.4	8	文化・芸術活動が盛ん	34.1	8	医療施設が充実している	33.8	↑
9	道路の整備状況がよい	22.2	9	開発の余地がある	33.7	9	農地が多く住宅地など開発の余地がある	32.1	↑
10	開発の余地がある	21.4	10	市が適当な規模でまとまりがある	33.6	10	人間関係が良い	31.7	↓

1-7.岩倉市の魅力がない点（問9）【あてはまるものをすべて選択】

- ◆ 1人あたりの**選択項目数**は、魅力がある点と同じく、**前回調査よりも減少**。
- ◆ 「**防犯面における不安**」が**1位**（岩倉市内の犯罪認知件数は、H20：1,114件→H28：480件）。
- ◆ 「**防犯**」と「**活気がない**」の差は縮まりつつあり、「**働く場所がない**」と合わせ**トップ3**。



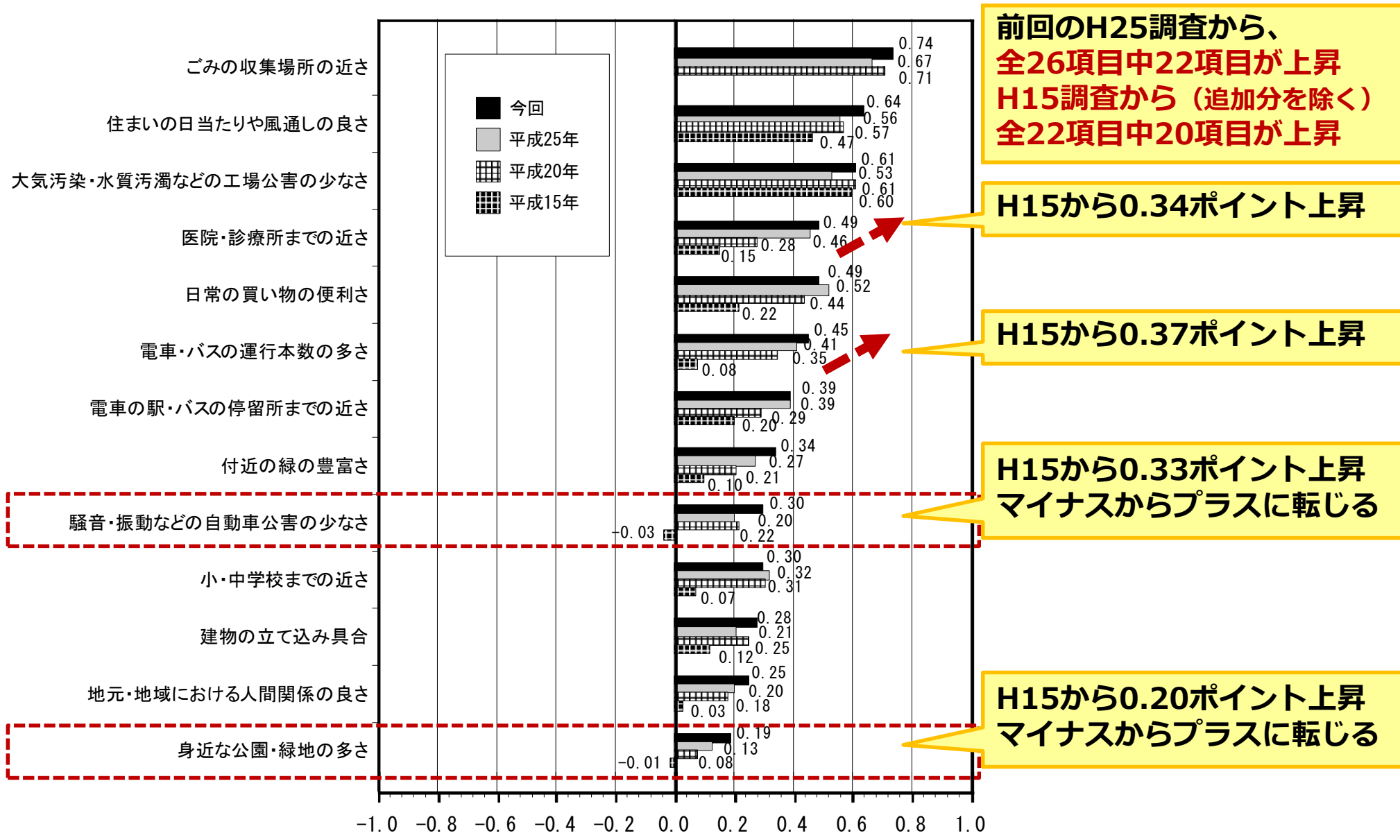
1人あたり 選択項目数 (H20基準)	
H30	5.1
H25	6.2
H20	4.5

1-8. 岩倉市の魅力がない点（問9、上位10項目の推移）

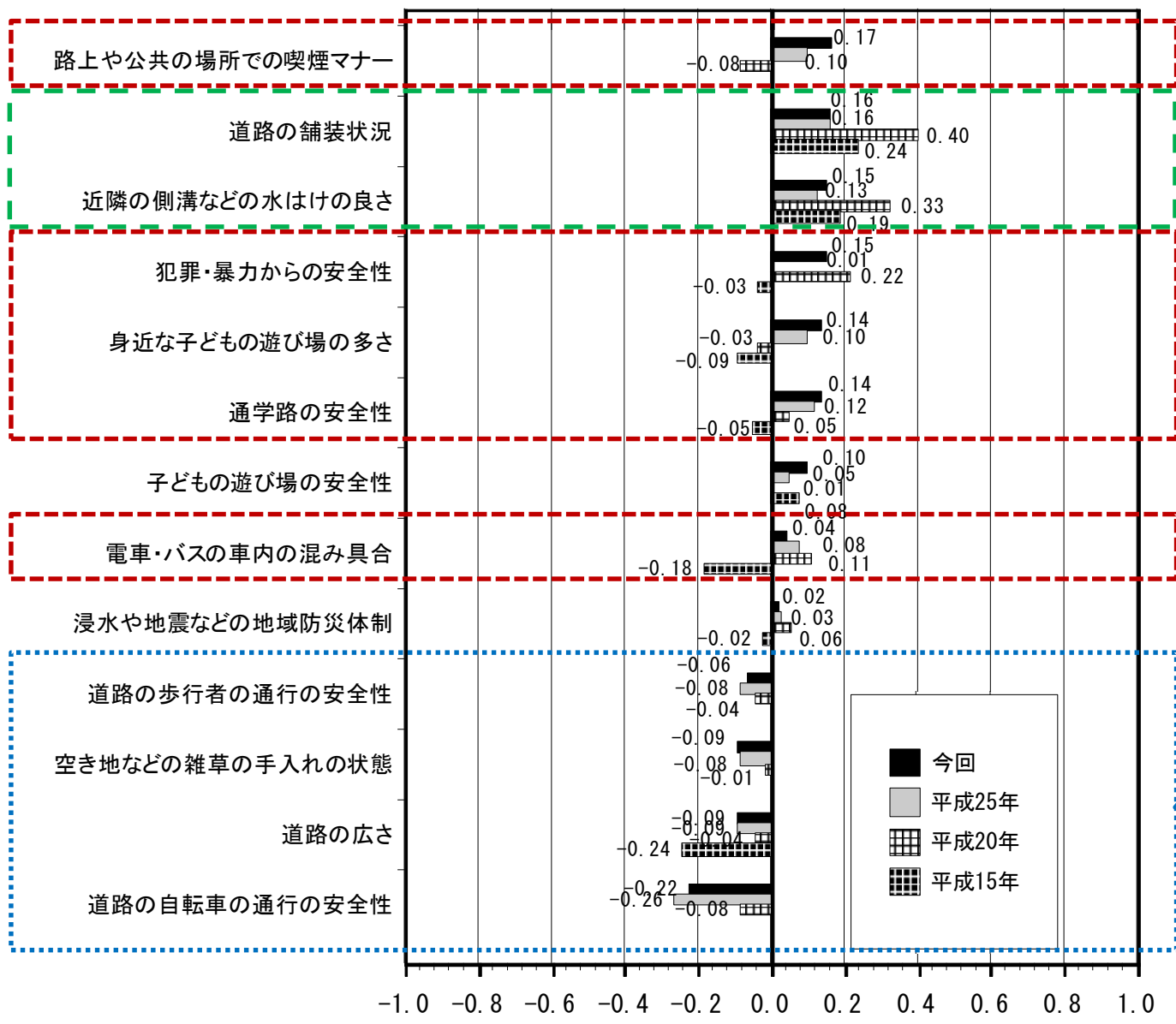
- ◆ 順位変動はあるが、道路整備を除き、魅力がない点としての回答割合は低下傾向。
- ◆ 「防犯」、「活気」、「働く場所」の3項目が上位を占める傾向は変化していない。
- ◆ 「小売店が少なく不便」の低下と、「スポーツ施設が充実していない」の上昇が目立つ。

順位	平成20年	割合	順位	平成25年	割合	順位	平成30年	割合	前回比較
1	防犯面における不安が多い	39.5	1	防犯面における不安が多い	51.0	1	防犯面における不安が多い	42.4	↓
2	まちに活気がない	36.1	2	働く場所がない	49.5	2	まちに活気がない	41.7	↓
3	働く場所がない	34.0	3	まちに活気がない	48.3	3	働く場所がない	37.4	↓
4	小売店が少なく不便	30.9	4	スポーツ施設が充実していない	41.2	4	スポーツ施設が充実していない	35.2	↓
5	医療施設が整っていない	30.8	5	医療施設が充実していない	38.4	5	医療施設が充実していない	28.5	↓
6	道路の整備状況が悪い	21.8	6	防災対策がいきとどいていない	32.4	6	道路の整備状況が悪い	28.0	↑
7	市域が狭く開発の余地が少ない	21.7	7	道路の整備状況が悪い	27.9	7	防災対策がいきとどいていない	26.8	↓
8	スポーツ施設が整っていない	20.1	8	歴史的遺産に恵まれていない	27.2	8	文化財など歴史的遺産に恵まれていない	22.2	↓
9	介護保険施設が整っていない	18.8	9	文化・教育施設が充実していない	25.3	9	文化・教育施設が充実していない	21.4	↓
10	防災対策がゆきとどいていない	18.6	10	市域が狭く開発の余地が少ない	23.1	10	市域が狭く開発の余地が少ない	20.6	↓

1-9.住まい周辺の生活環境（問 8、満足度得点の上位13項目）



1-10.住まい周辺の生活環境（問 8、満足度得点の下位13項目）

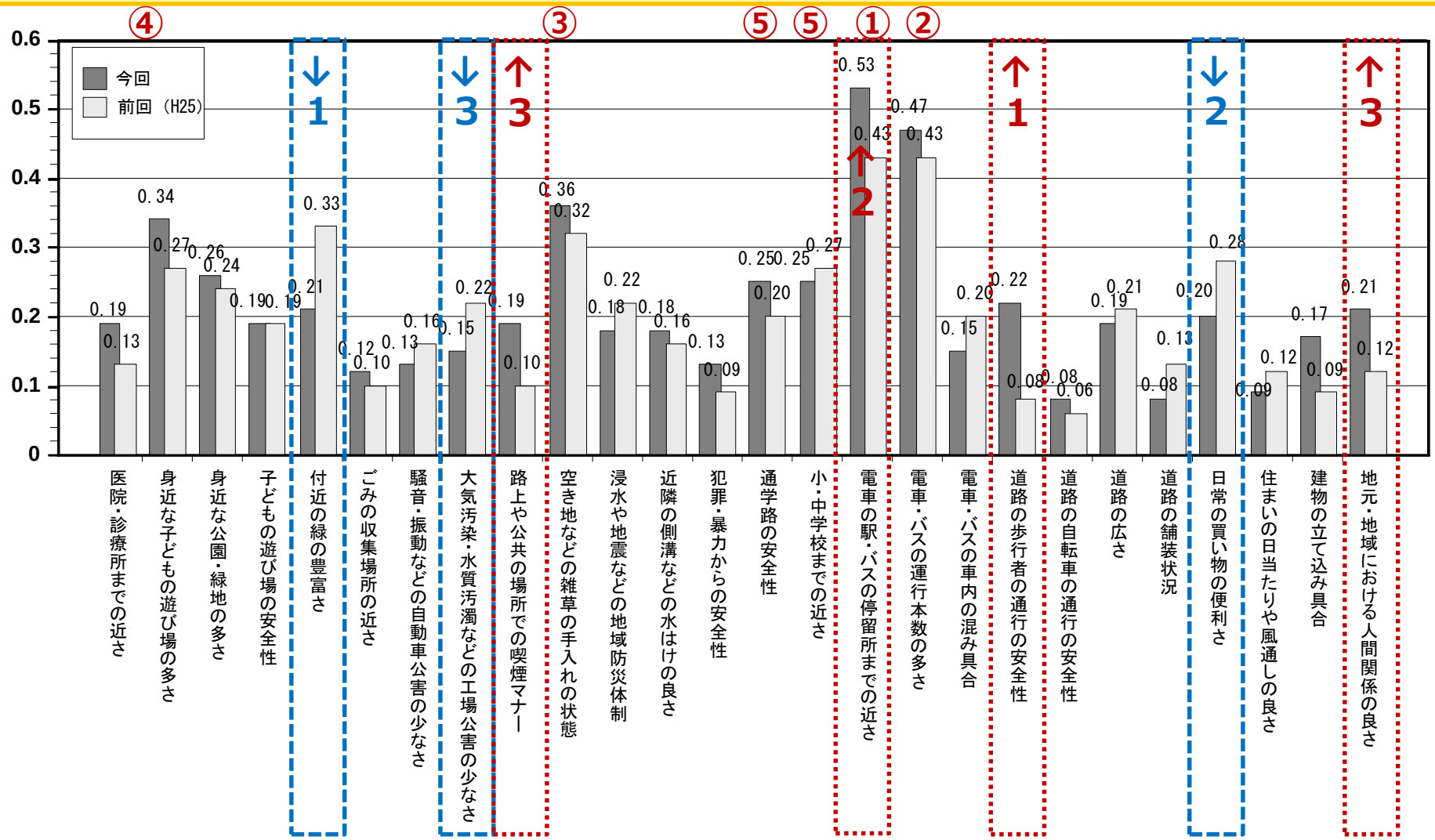


H15以降、マイナスからプラスに転じたのは7項目（下位で5、上位で2項目）

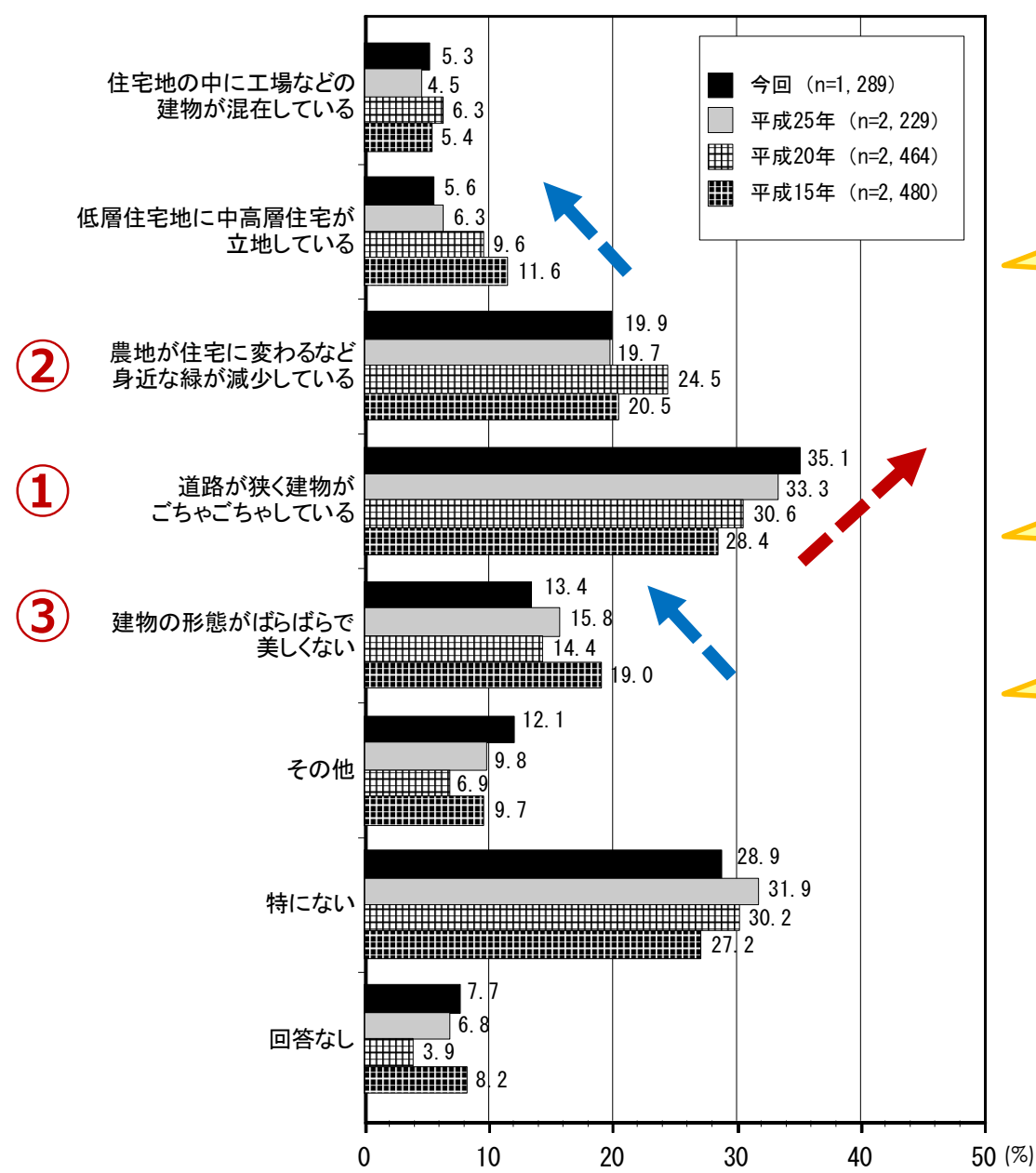
道路に関する項目はH15からマイナスの評価のままであるものが多い

1-11.住まい周辺の生活環境（問 8、満足度得点の小学校区間の格差）

- ◆ H25調査と比べ、26項目中15項目で最高値と最低値の差が広がり、格差は拡大傾向。
- ◆ 「緑の豊かさ」、「買い物の便利さ」、「公害の少なさ」が格差縮小トップ3。
- ◆ 「歩行者の安全」、「駅の近さ」、「喫煙マナー」、「人間関係」が格差拡大トップ3。



1-12. 居住環境の問題点（問14、経年比較）【あてはまるものをすべて選択】



H15年調査から減少が続き、
6.0ポイント低下

H15調査から増加が続き、
6.7ポイント上昇

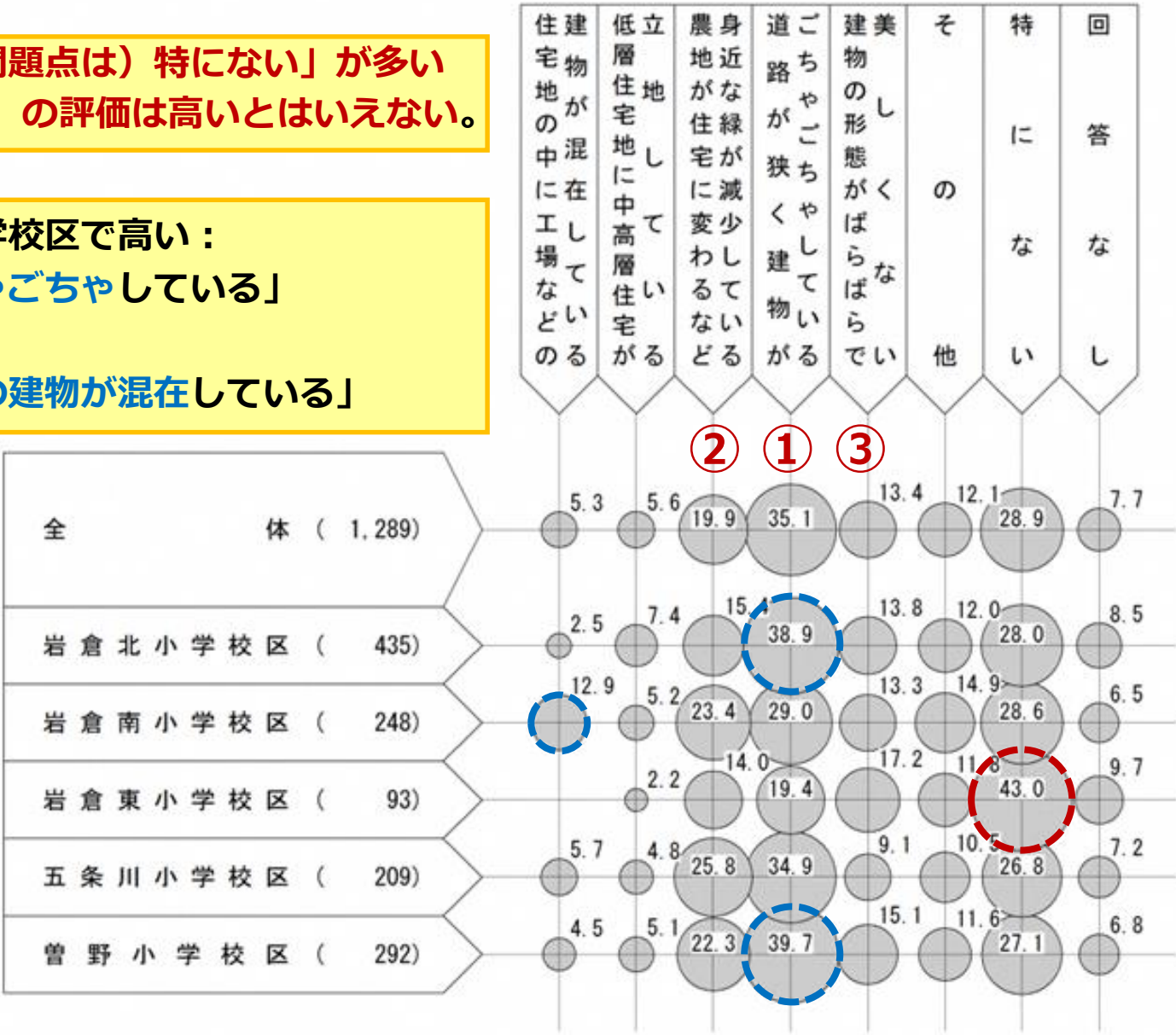
H15調査から減少傾向で、
5.6ポイント低下

「特になし」（28.9%）と
「回答なし」（7.7%）を除いた
63.9%の市民が何らかの問題が
あると感じている。

1-13. 居住環境の問題点（問14、小学校区別）【あてはまるものをすべて選択】

◆岩倉東小学校区では「（問題点は）特になし」が多い
⇒「住みやすさ」（問12）の評価は高いとはいえない。

◆岩倉北小学校区、曾野小学校区で高い：
「道路が狭く建物がごちゃごちゃしている」
◆岩倉南小学校区で高い：
「住宅地の中で工場などの建物が混在している」



2 施策の評価

2-1. 施策に対する満足度（問10、得点の上位と下位）

- ◆41項目のうち、36項目がプラス評価、5項目がマイナス評価。
- ◆自然環境、社会インフラ（交通、衛生など）、健康・医療などの評価が高い。
- ◆安全対策、市街地・産業の活力に関する項目の評価が特に低い。

満足度上位 10 項目		
順位	項目	得点
1	自然環境の保全	0.86
2	公共交通の利便性	0.75
3	水道水の安定供給	0.73
4	ごみ収集・処理体制	0.68
5	消防・救急体制	0.52
6	生活排水処理	0.38
7	健康づくりへの支援	0.37
8	医療費の助成	0.30
9	生涯学習の充実	0.29
10	公園整備・維持管理	0.25

満足度下位 10 項目		
順位	項目	得点
1	交通安全対策	-0.22
2	産業振興	-0.18
3	市街地の形成	-0.09
4	小売商業の振興	-0.09
5	観光・交流の振興	-0.03
6	防災対策	0.02
7	農業振興策	0.02
8	消費生活相談体制	0.02
9	図書館の充実	0.03
10	防犯対策	0.07

満足度がマイナス
= 「不満」の回答が
「満足」の回答を
上回る項目

2-2. 施策に対する重要度（問10、得点の上位と下位）

- ◆41項目の全てがプラスとなっている。
- ◆安全・安心や公衆衛生の項目に加え、子育て支援サービスが上位に入っているのが特徴。
- ◆市民生活の質的向上を図るものについても重要度はプラスで、軽視されている訳ではない。

重要度上位 10 項目		
順位	項目	得点
1	防災対策	1.21
2	水道水の安定供給	1.21
3	消防・救急体制	1.20
4	生活排水処理	1.10
5	ごみ収集・処理体制	1.06
6	公共交通の利便性	1.05
7	防犯対策	1.04
8	子育て支援サービス	1.03
9	交通安全対策	1.03
10	医療機関との連携	1.02

重要度下位 10 項目		
順位	項目	得点
1	市民活動団体の支援	0.18
2	男女共同参画の推進	0.23
3	観光・交流の振興	0.25
4	地域コミュニティ活動支援	0.25
5	文化・芸術の振興	0.26
6	消費生活相談体制	0.31
7	遺跡・文化財の保護	0.32
8	農業振興策	0.35
9	生涯学習の充実	0.36
10	平和活動の推進	0.38

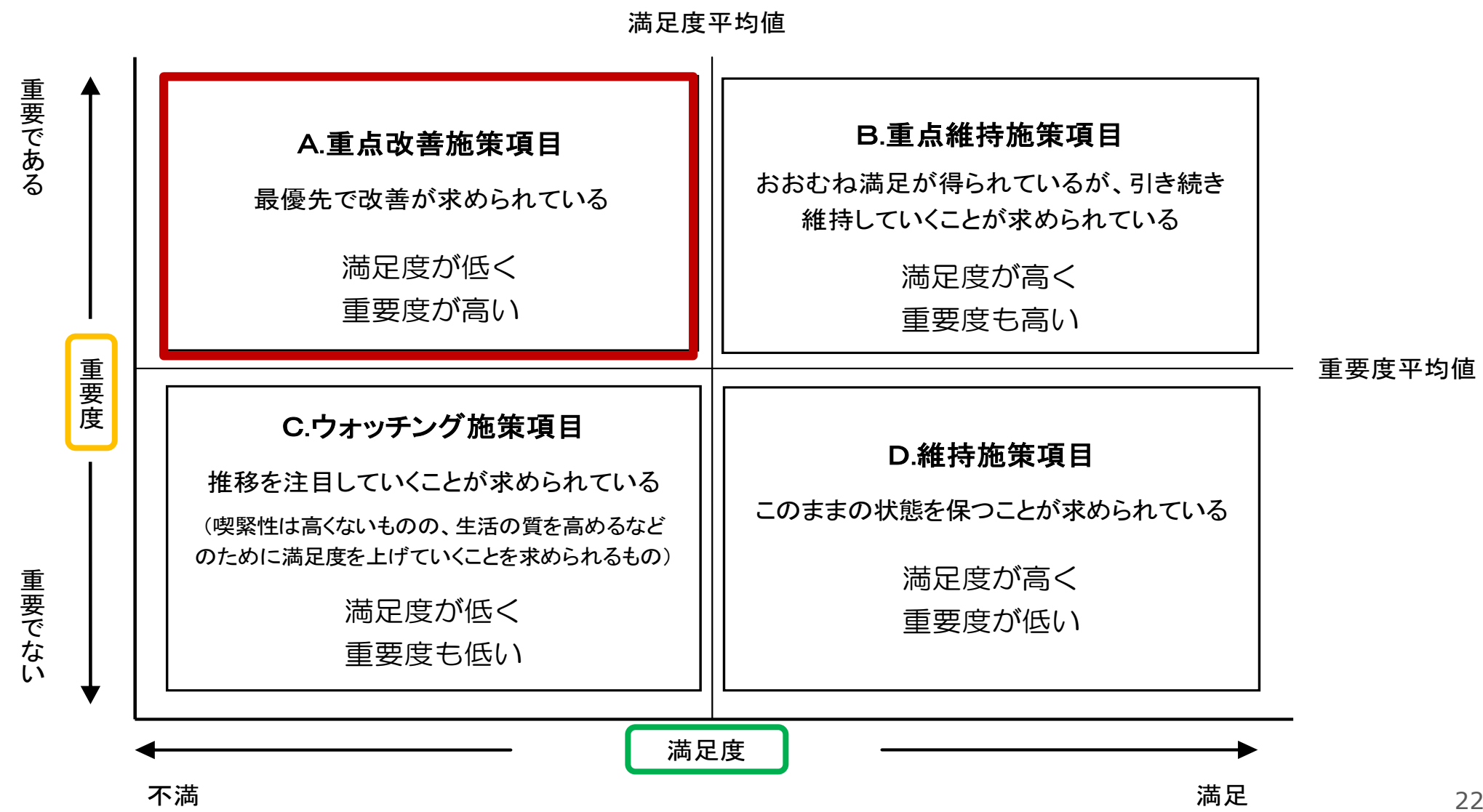
重要度がプラス
= 「重要」の回答が
「重要でない」の
回答を上回る

市民参加、文化活動
学習活動といった、
生活の質的な向上に
関する項目が多い

2-3. 施策に対する満足度と重要度の評価（問10）

【ポートフォリオ分析の考え方】

◆満足度を横軸と重要度を縦軸に配置し、各項目の位置取りから、重点的に改善すべき項目を分析。



2-4. 満足度・重要度からみた重点施策（問10、得点の上位と下位）

- ◆ 日常的な暮らしを支える施策の優先度が高い。
- ◆ 日常生活の安全・安心に関わる項目が1位から3位までを占めている。
- ◆ 次いで、医療・福祉サービスに関わる項目が4位から7位までを占める。

順位	項目	優先度 (重要度-満足度)	満足度	重要度
1	交通安全対策	1.25	-0.22	1.03
2	防災対策	1.19	0.02	1.21
3	防犯対策	0.97	0.07	1.04
4	医療機関との連携	0.85	0.17	1.02
5	子育て支援サービス充実	0.81	0.22	1.03
6	高齢者福祉サービス充実	0.77	0.17	0.94
7	障がい者福祉サービスの充実	0.76	-0.09	0.67
8	市街地の形成	0.76	-0.18	0.58
9	産業振興	0.75	0.08	0.83
10	公害の防止	0.73	0.23	0.96
11	生活排水処理	0.72	0.38	1.10
12	消防・救急体制	0.68	0.52	1.20
13	医療費の助成	0.63	0.30	0.93
14	小・中学校の教育活動の充実	0.62	0.19	0.81
15	公園の整備・維持管理	0.60	0.25	0.85

安全・安心に関する項目

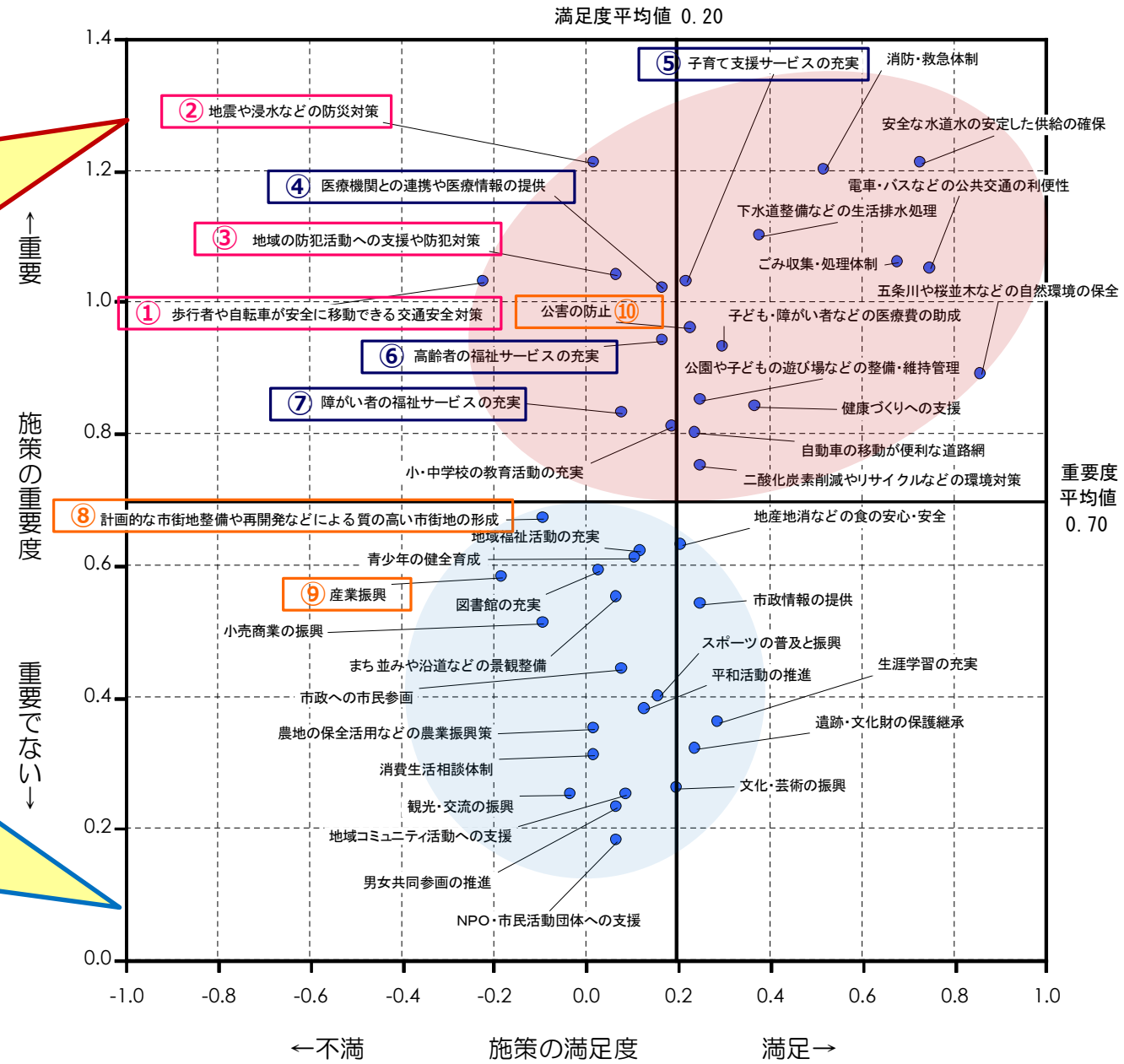
医療・福祉に関する項目

満足度が全体平均より低く、重要度が全体平均より高い
重点改善施策項目

2-5. 満足度・重要度からみた重点施策（問10、ポートフォリオ分析）

交通安全や防犯・防災、医療・福祉といった、暮らしの安定や安心に関する施策について、特に優先度が高くなっている。

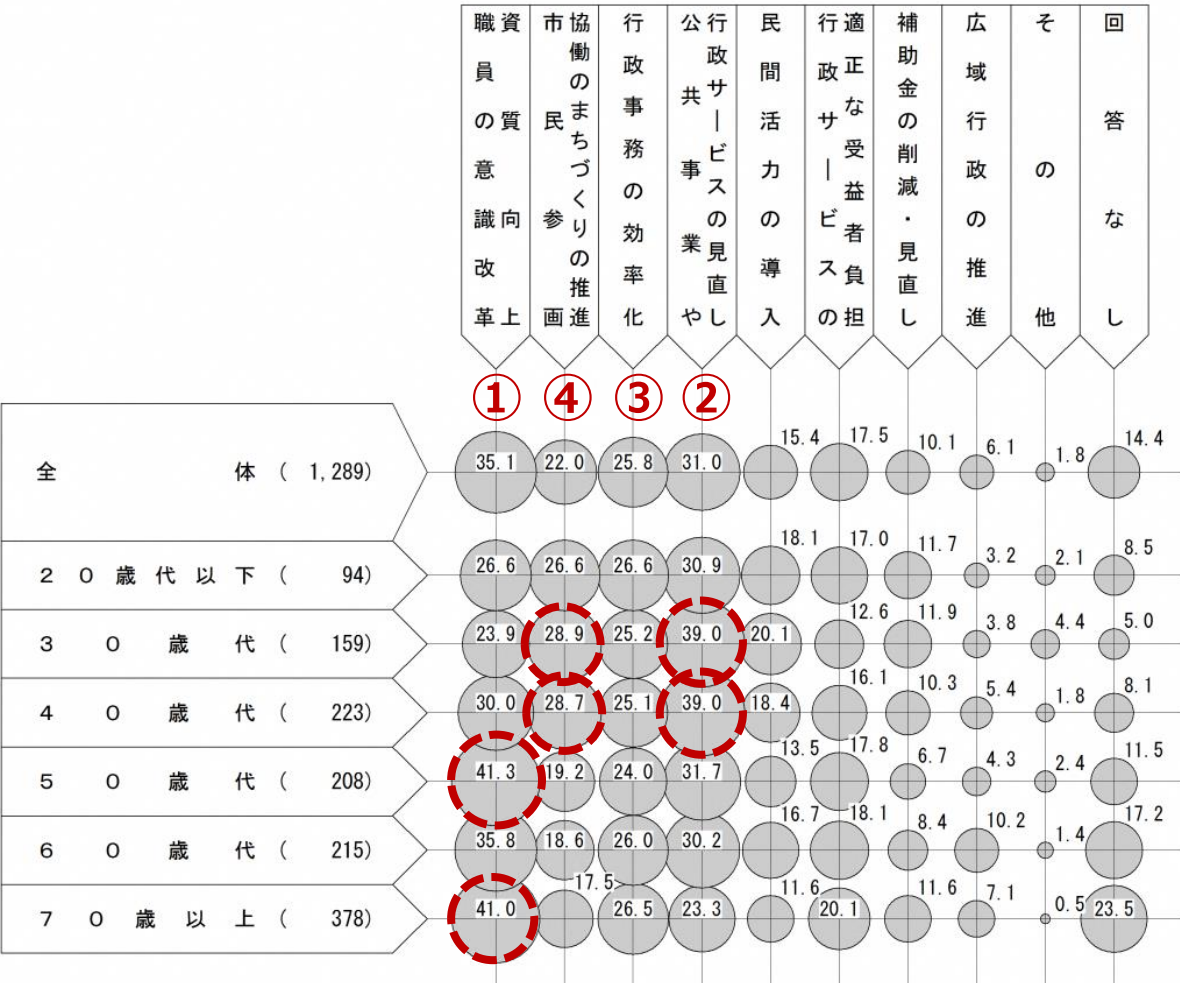
生活の質的な向上や市民参加の基盤形成に関する項目についても、満足度が低い項目はあり、喫緊ではないが充実が求められている施策もある。



3 施策の要望・方向性

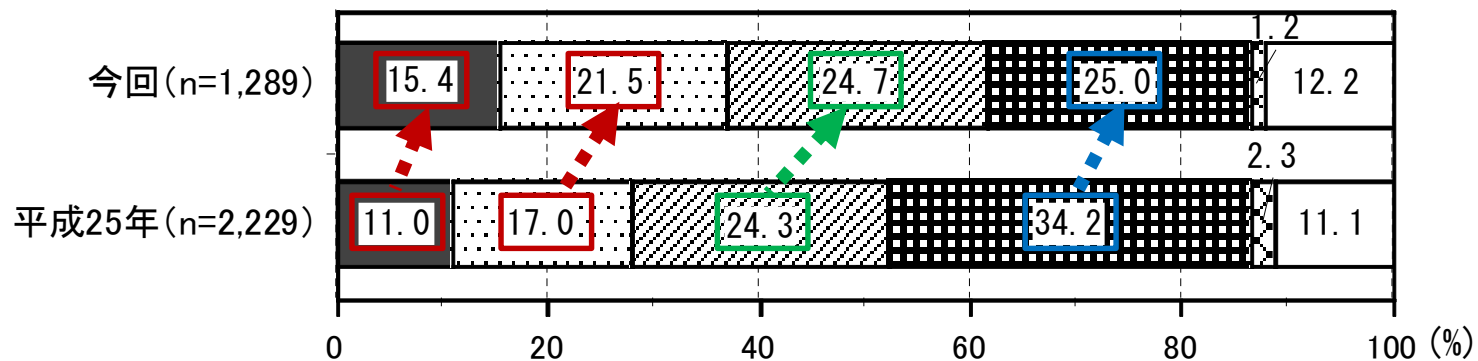
3-1. 行政経営への要望（問44、年齢別）【3つまで選択】

- ◆「職員の資質向上」は、年齢が高くなると、回答割合も高くなる傾向がみられる。
- ◆30～40歳代では、「市民参画、協働のまちづくりの推進」、「公共事業や行政サービスの見直し」といった項目が高いことが特徴。



3-2. 行政サービスと市民負担のバランス（問45、経年）

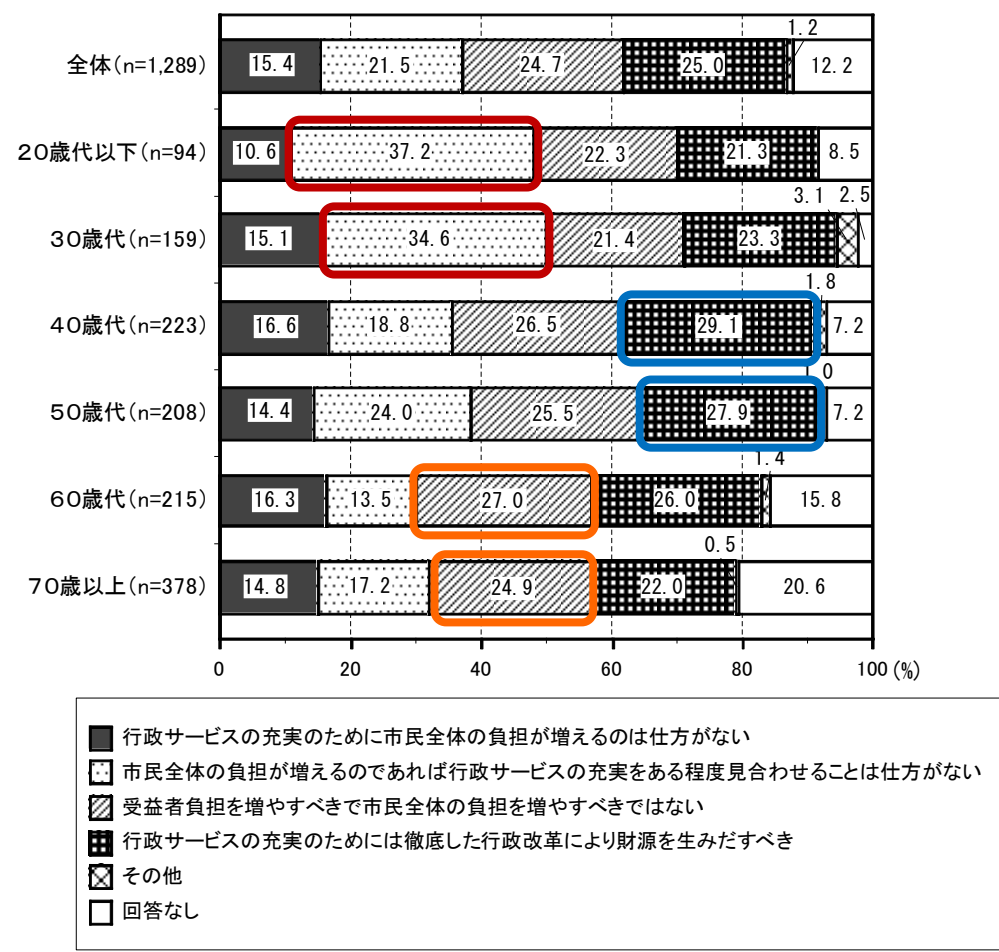
- ◆ 「負担が増えるのは仕方ない」「サービス充実を見合わせるのは仕方がない」といった、市民全体の負担増または市民サービスの縮減に肯定的な意見はH25から増加傾向。
- ◆ 「行政改革により財源を生み出すべき」のみ9.2ポイント減少。



- 行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない
- ▨ 市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
- ▧ 受益者負担を増やすべきで市民全体の負担を増やすべきではない
- ▩ 行政サービスの充実のためには徹底した行政改革により財源を生みだすべき
- ▦ その他
- 回答なし

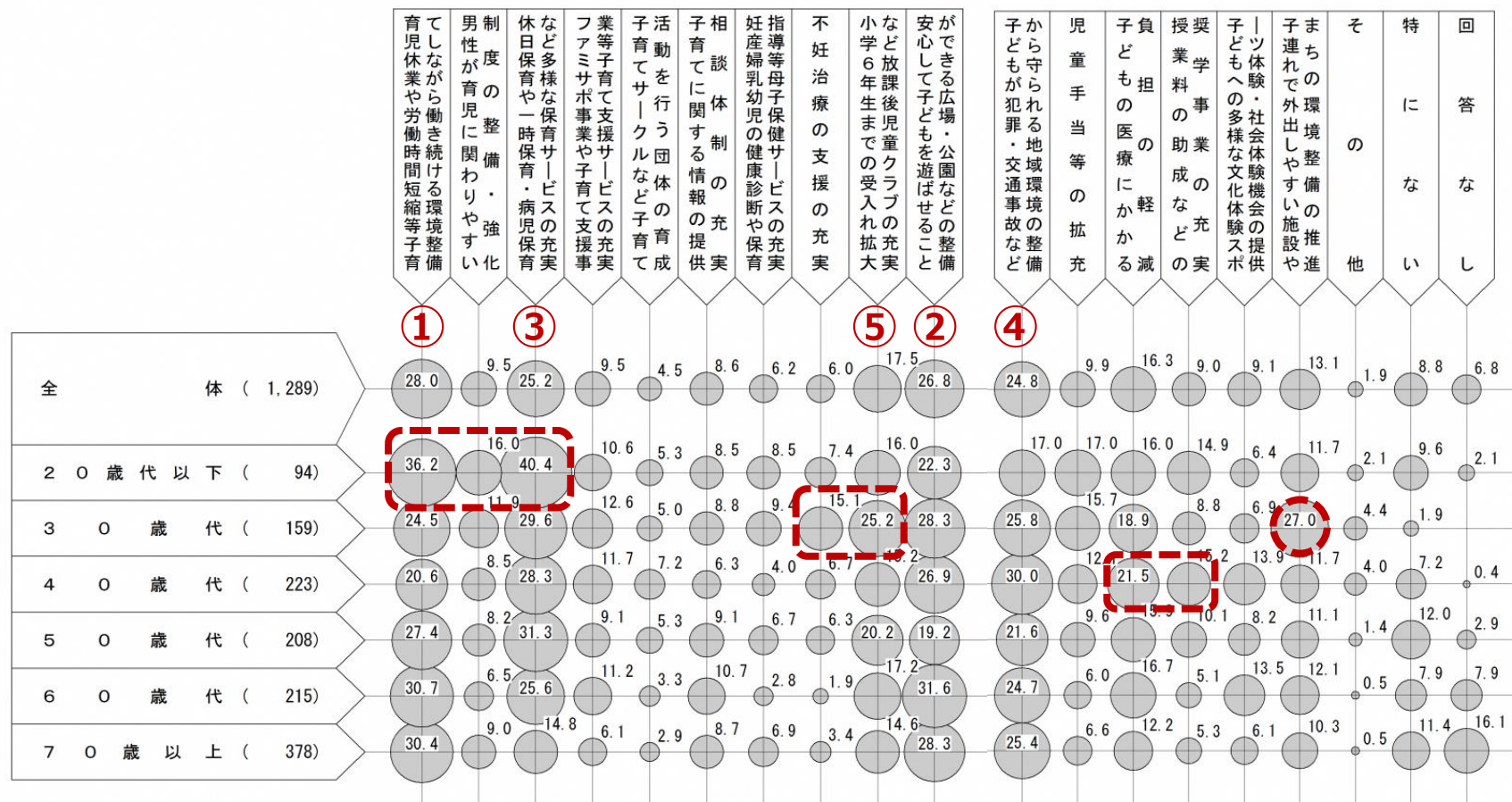
3-3. 行政サービスと市民負担のバランス（問45、年齢別）

- ◆「市民全体の負担が増えるのは仕方ない」、「受益者負担を増やす」は年齢差が小さい。
- ◆30歳代以下では、「サービス充実を見合わせる」が他よりも高く、4項目中で最多。
- ◆40～50歳代は、「行政改革により財源を生み出すべき」が4項目中で最多。
- ◆60～70歳以上は、「受益者負担を増やすべき」が4項目中で最多。



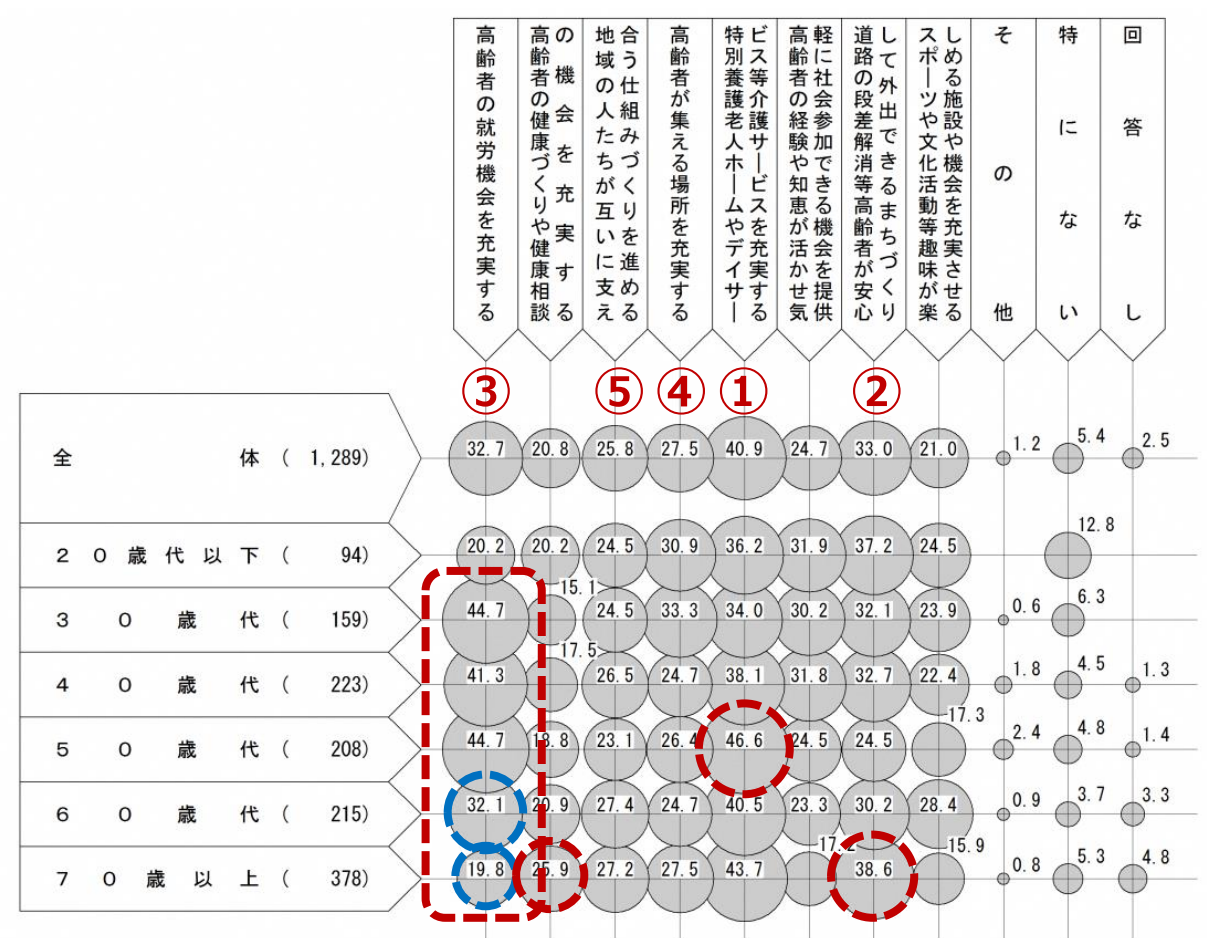
3-4. 子育て施策に関する方向性（問24、年齢別）【3つまで選択】

- ◆力をいれるべき項目は、**年齢によって大きく異なり**、年齢に応じた施策の検討が重要。
- ◆20歳代以下：「働き続ける環境整備」、「保育の充実」など**仕事と子育ての両立**を重視。
- ◆30歳代：**「不妊治療支援」**、「放課後児童クラブ充実」、「子連れで外出しやすい環境」。
- ◆40歳代：「医療にかかる負担の軽減」、「**奨学事業の充実**」。



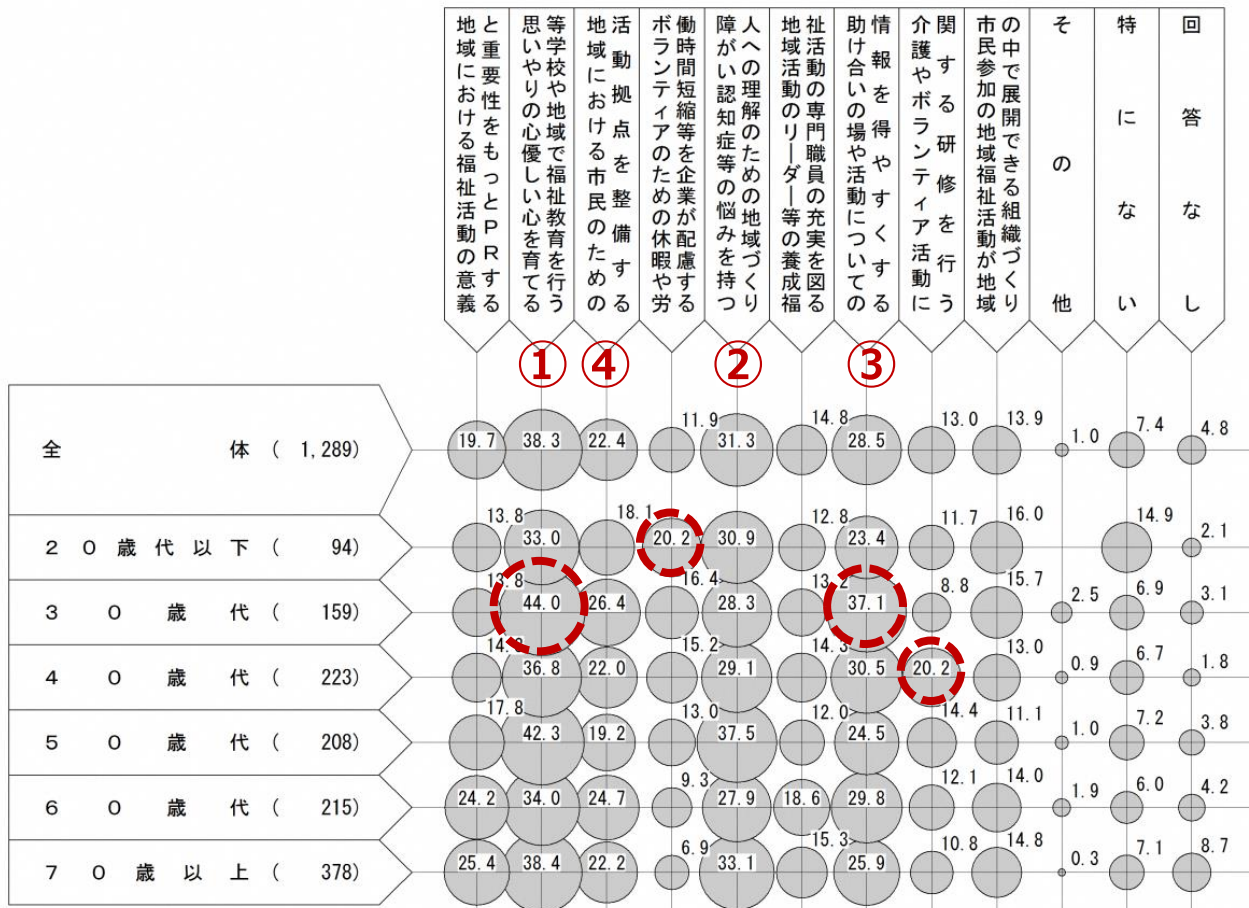
3-5. 高齢者福祉に関する方向性（問25、年齢別）【3つまで選択】

- ◆当事者である高齢者と、それ以外の年齢の市民とのギャップが大きい項目が複数みられる。
- ◆「介護サービスの充実」は最も高く、特に介護が身近な問題となる50歳代で高い。
- ◆「高齢者の就労機会の充実」は30～50歳代で特に高く、60～70歳以上と意識差がある。
- ◆70歳以上で他と比べて高いのは、「健康づくり」、「安心して外出できるまちづくり」。



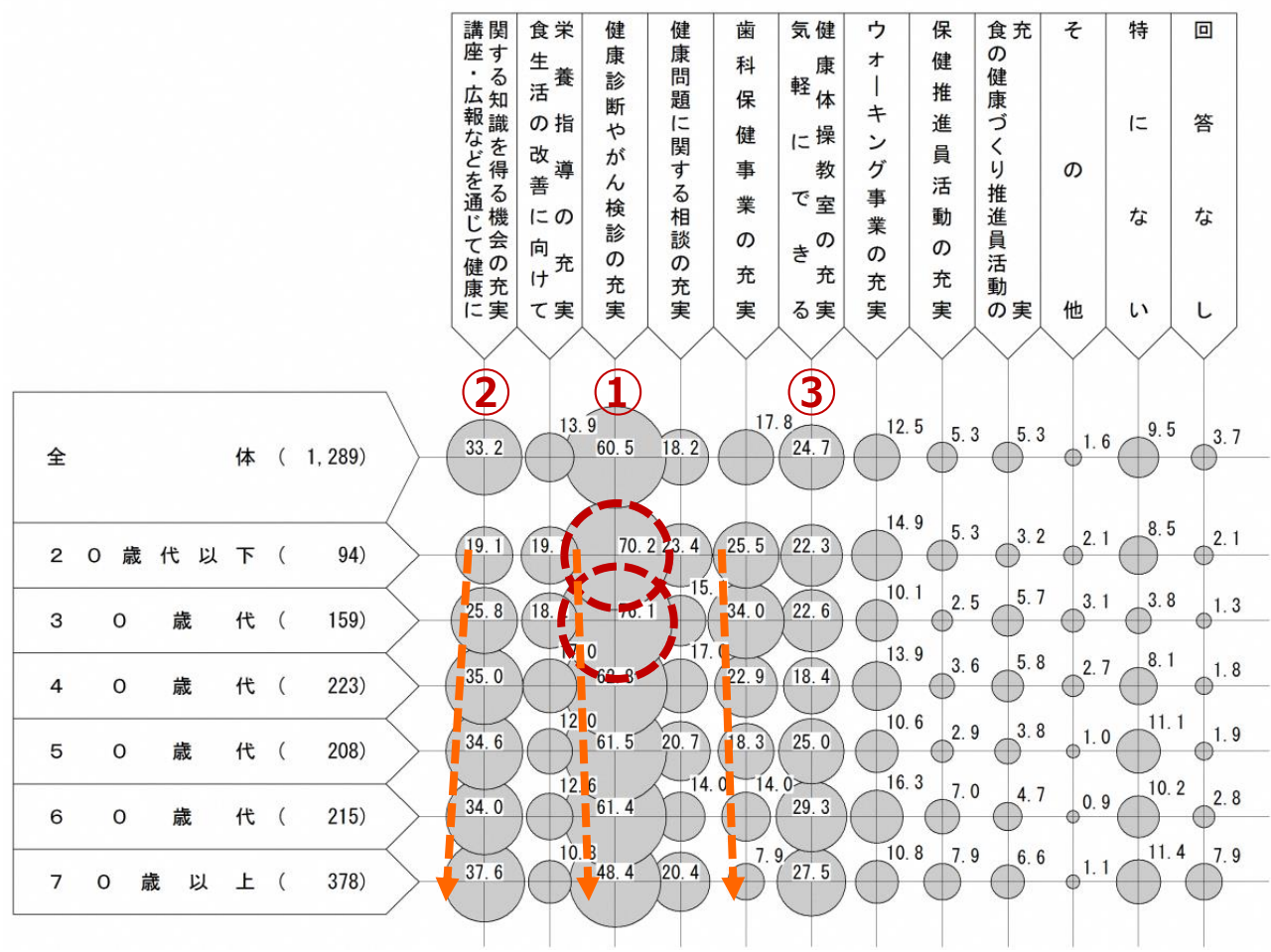
3-6. 地域福祉に関する方向性（問26、年齢別）【3つまで選択】

- ◆ 「特になし」と「回答なし」を除いた**87.8%の市民が、地域福祉に力を入れるべき施策があると回答。**
- ◆ **20歳代では「ボランティアのための休暇等に企業が配慮」が高くなっているのが特徴。**
- ◆ **30～40歳代は「福祉教育を行う」「情報を得やすくする」、「介護やボランティア活動に関する研修」といった、情報収集や学習の機会を重視している。**



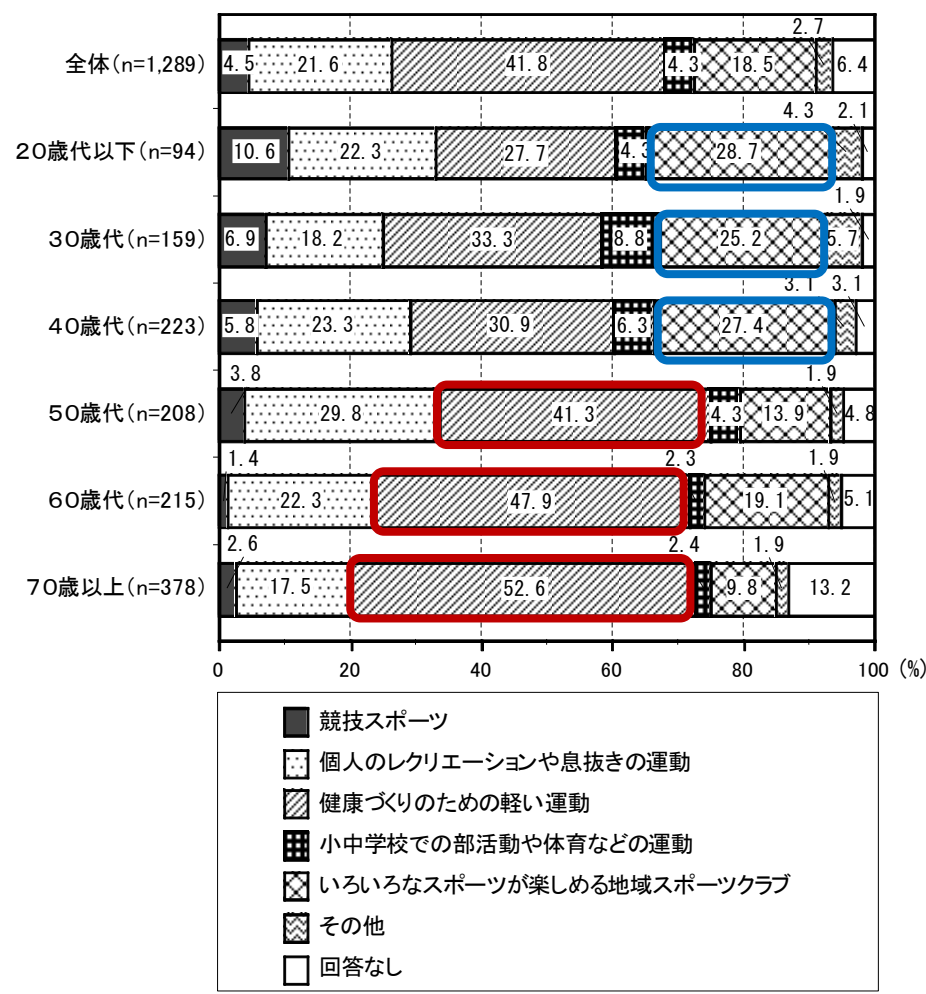
3-7. 健康づくりに関する方向性（問23、年齢別）【3つまで選択】

- ◆「特になし」と「回答なし」を除いた86.8%の市民が、健康づくりのため力を入れるべき施策があると回答している。
- ◆年齢差が特に大きいのは、「講座・広報の充実」、「健康診断」、「歯科保健事業」。
- ◆「健康診断やがん診断の充実」は、20歳代以下や30歳代で特に高い。



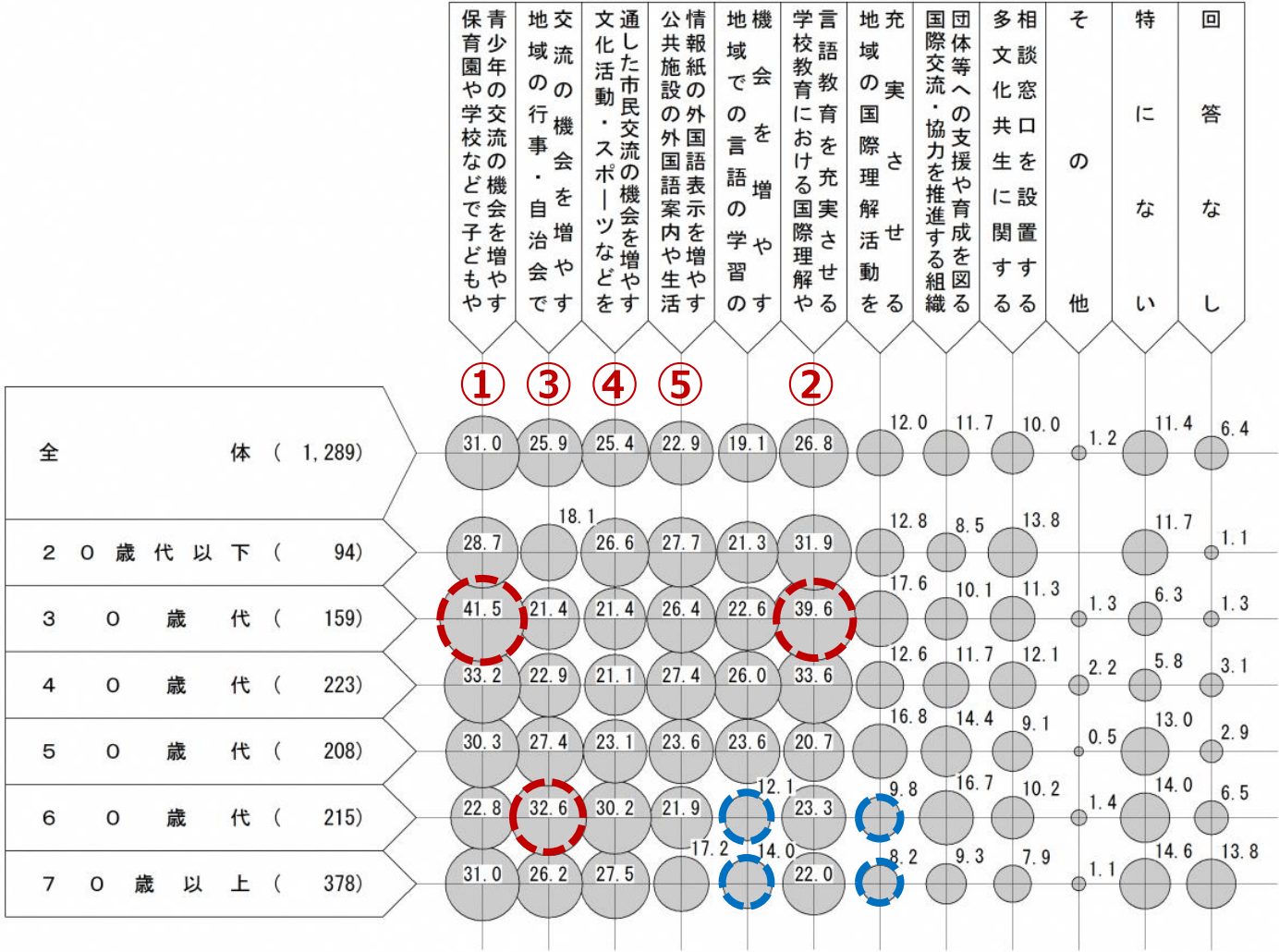
3-8. 盛んにするスポーツ・運動（問19、年齢別）

- ◆ 年齢が高いほど、「健康づくりの軽い運動」の割合が高くなる傾向。
- ◆ 20歳代以下～40歳代では、「地域スポーツクラブ」の要望が高い。



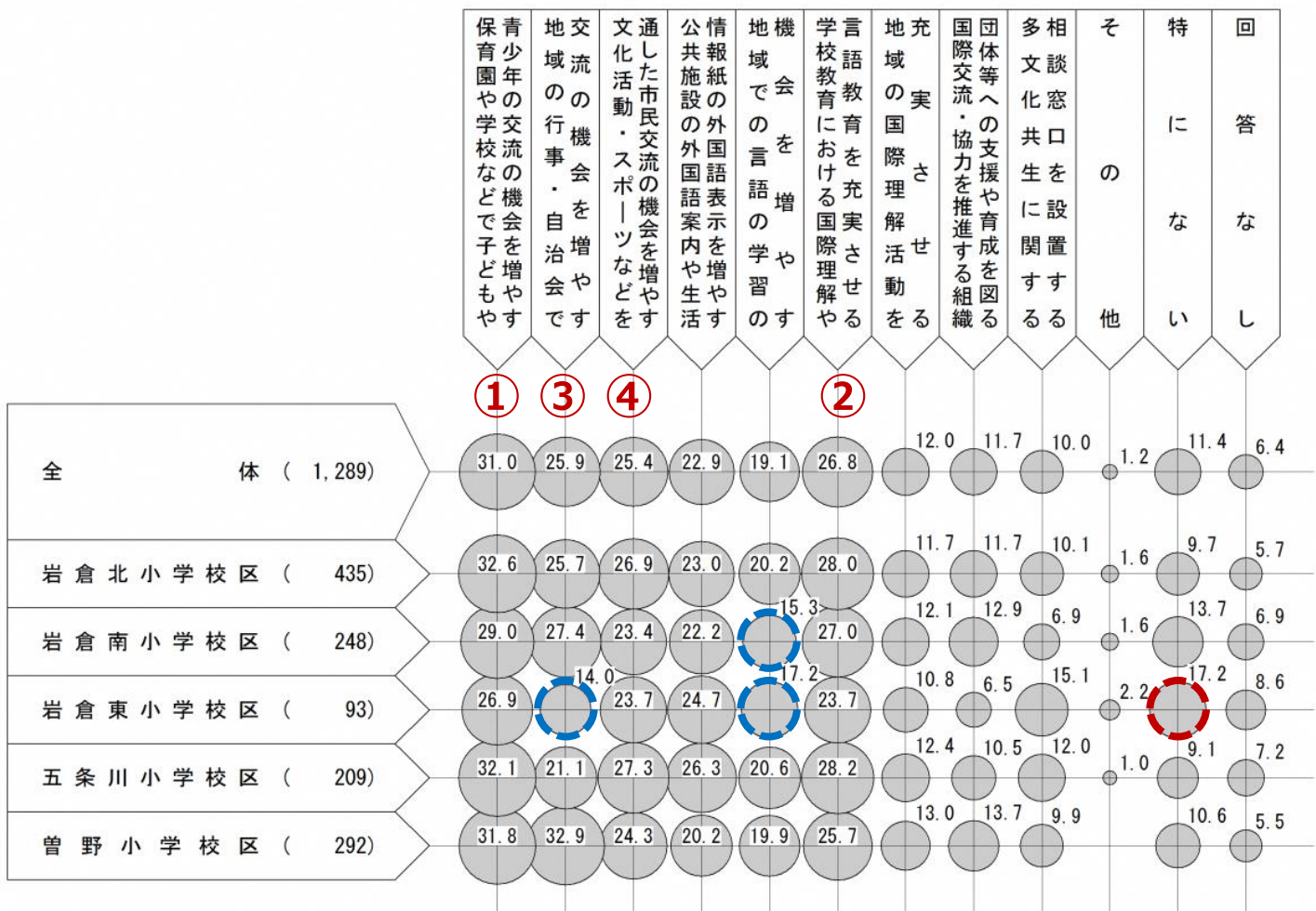
3-9. 多文化共生に対する方向性（問30、年齢別）【3つまで選択】

- ◆ 交流機会の増加や国際理解・言語教育の促進に関する項目が上位を占める
- ◆ 「青少年の交流」や「教育」は、子育てをしている人が多い30歳代で高い。
- ◆ 「地域で交流」は60歳代が高いが、高齢者は「地域での言語学習や国際理解活動」が低い。



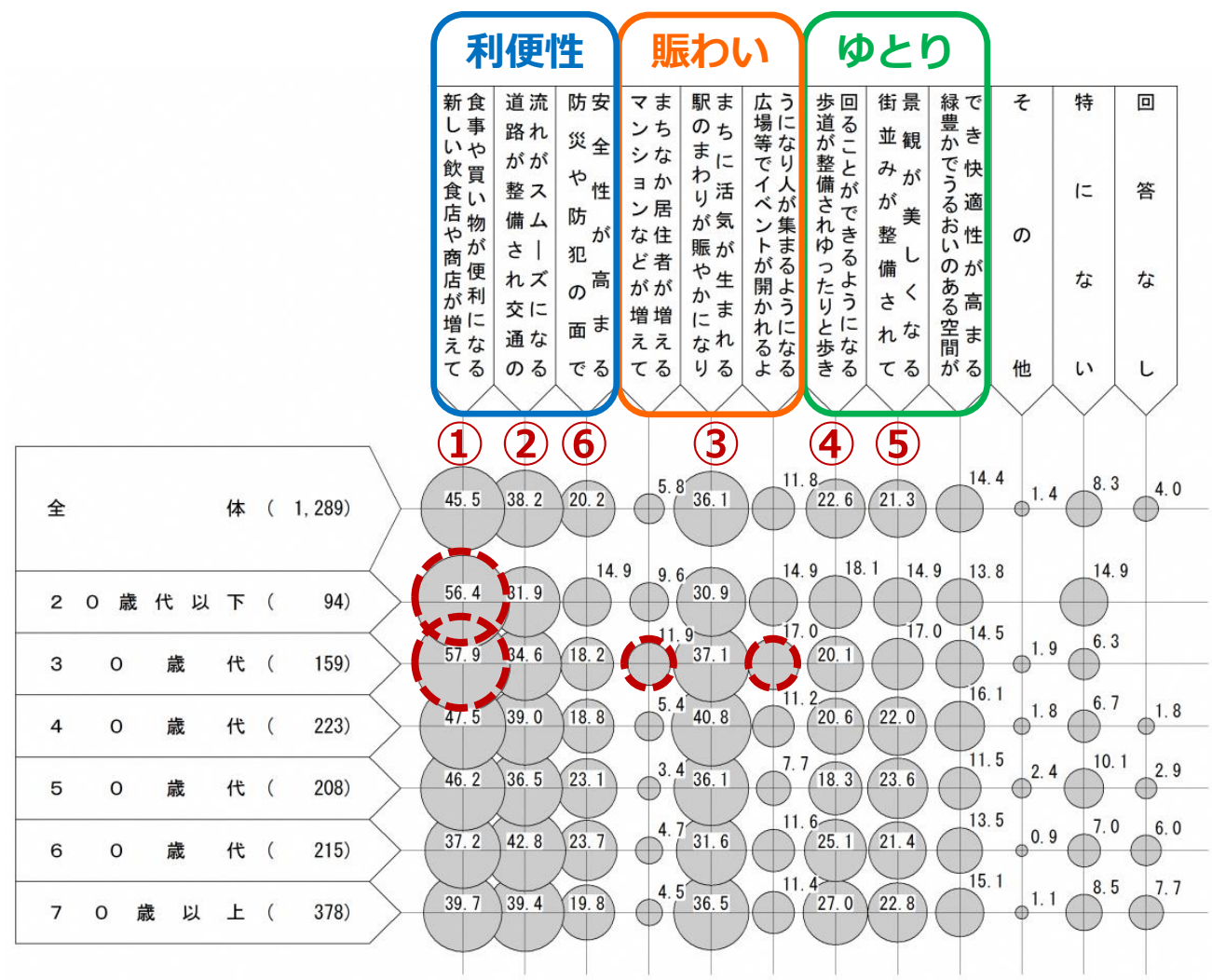
3-10. 多文化共生に対する方向性（問30、小学校区別）【3つまで選択】

- ◆全体的にみて、小学校区間で大きな差がみられる項目は少ない。
- ◆岩倉東小学校区では、「地域の行事・自治会で交流の機会を増やす」が他よりも低い。
- ◆「特にない」との回答も、岩倉東小学校区ではやや高い。



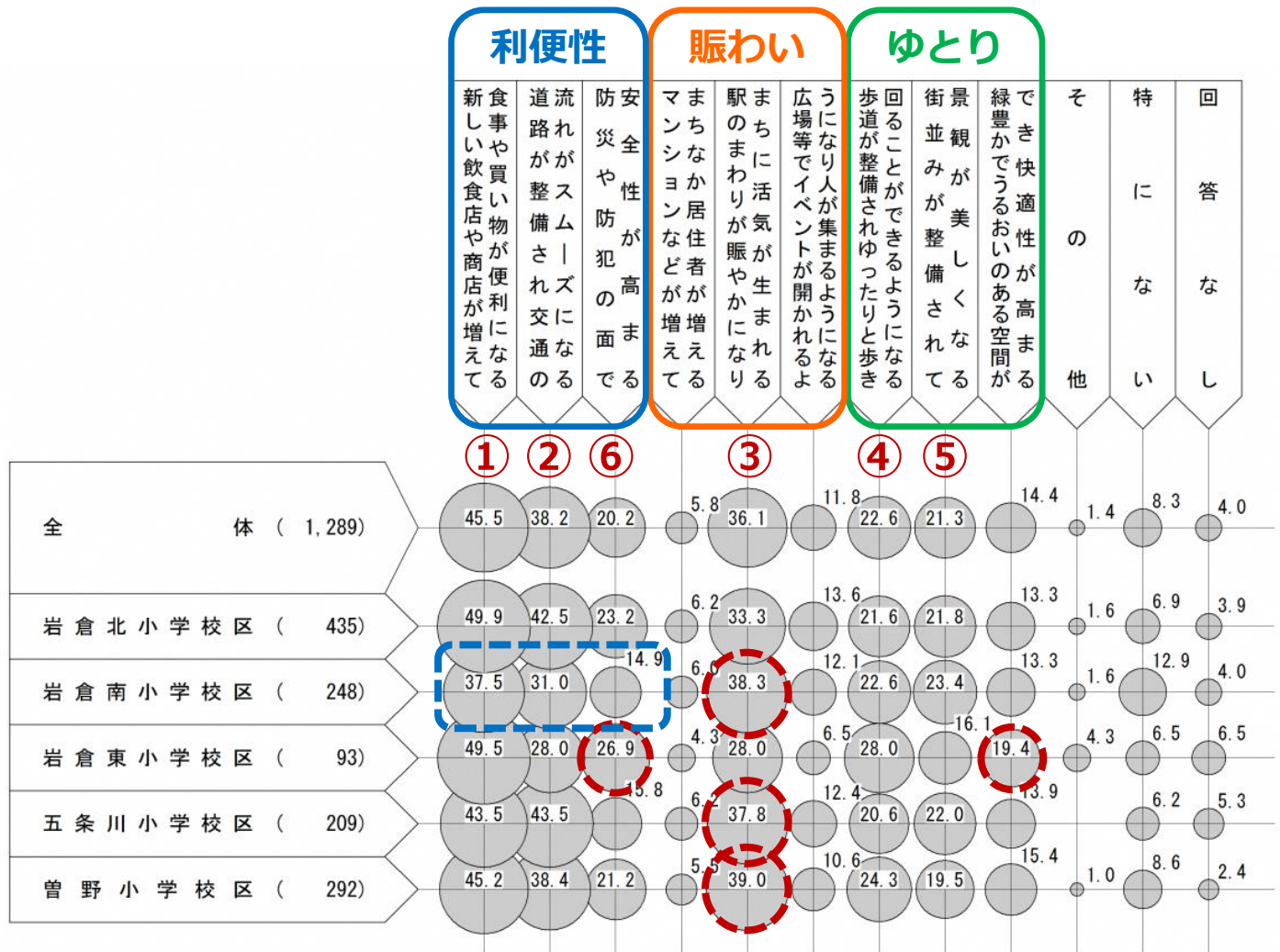
3-11. 岩倉駅東地区のあり方（問34、年齢別）【3つまで選択】

- ◆「食事、買物」、「道路交通」など**利便性の向上に関する項目が上位で**、「**活気**」が次ぐ。
- ◆**30歳代では「イベント」や「まちなか居住」も高いのが特徴。**



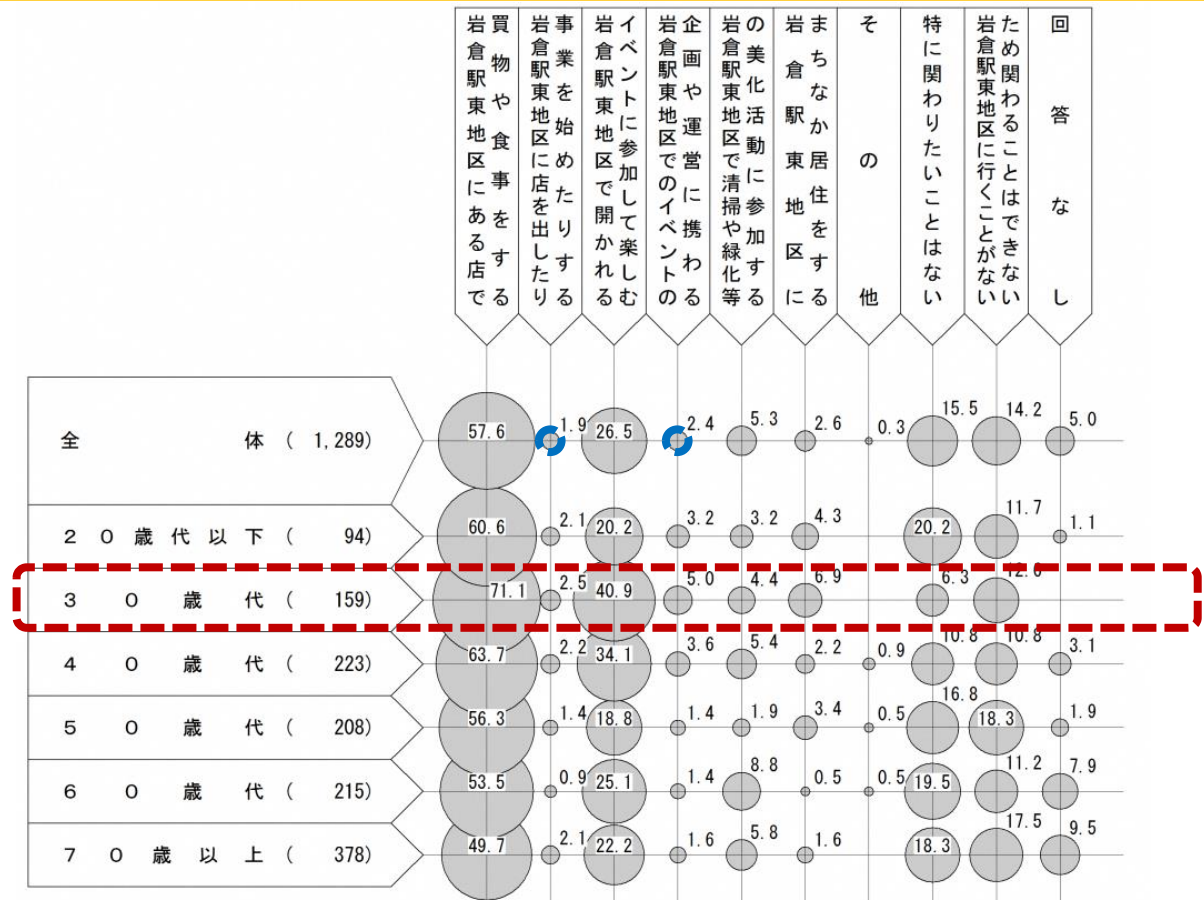
3-12. 岩倉駅東地区のあり方（問34、小学校区別）【3つまで選択】

- ◆「利便性」に関する項目は、岩倉南小学校区を除くほぼすべての小学校区で高い。
- ◆曾野、岩倉南、五条川小学校区では「まちに活気生まれる」が高い。
- ◆岩倉東小学校区は「安全性が高まる」、「うるおいある空間」が他と比べて高い。



3-13. 岩倉駅東地区との関わり方（問35、年齢別）【3つまで選択】

- ◆「関わりたいことはない」、「関わることはできない」、「回答なし」を除く65.3%の市民は関わりたいことがあると回答している。
- ◆「店で買物や食事」、「イベントに参加」といった気軽な参加の意向が高い。
- ◆「事業を始める」、「イベントの企画や運営」といった主体的な関わりを希望する人も、実際の人数に換算すると数十人程度はいる。
- ◆30歳代は、岩倉駅東地区に関わりたいとの意向が他と比べて強い。



3-14. 岩倉駅東地区との関わり方（問35、小学校区別）【3つまで選択】

- ◆ 岩倉東、曽野小学校区では、買物や食事をする事への関心が他の小学校区よりも高い。
- ◆ 曽野小学校区の「まちなか居住」、岩倉東小学校の「事業をはじめる」が他と比べて高い。
- ◆ 岩倉南小学校区では、「関わることはできない」との回答が多い。

